

(様式第10)

医大病 479 号

令和 6 年 10 月 8 日

厚生労働大臣 殿

開設者名 北海道公立大学法人札幌医科大学

理事長 山下 敏彦

札幌医科大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和5年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒060-8556 北海道札幌市中央区南1条西17丁目
氏名	北海道公立大学法人札幌医科大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

札幌医科大学附属病院

3 所在の場所

〒060-8543 北海道札幌市中央区南1条西16丁目291番地
電話 (011) 611-2111

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科				有			
内科と組み合わせた診療科名等							
	1呼吸器内科		2消化器内科		3循環器内科		4腎臓内科
	5神経内科		6血液内科		7内分泌内科		8代謝内科
<input checked="" type="radio"/>	9感染症内科		10アレルギー疾患内科またはアレルギー科				11リウマチ科
診療実績							
脳神経内科							

- (注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科				有			
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科		2消化器外科		3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科		8小児外科
診療実績							

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科		12放射線科
○	13放射線診断科	○	14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

- (注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科				有			
歯科と組み合わせた診療科名							
	1小児歯科	○	2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	循環器科	2	形成外科	3	リハビリテーション科	4	病理診断科	5	
6		7		8		9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計	(単位:床)
32				821	853	

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数	
医師	257	252.91	509.9	看護補助者	84	診療エックス線技師	0	
歯科医師	7	25.66	32.6	理学療法士	42	臨床検査 臨床検査技師	60	
薬剤師	55	1	56	作業療法士	12		衛生検査技師	0
保健師	0	0	0	視能訓練士	5		その他	0
助産師	47	1.65	48.6	義肢装具士	0	あん摩マッサージ指圧師	0	
看護師	798	18.66	816.6	臨床工学士	22	医療社会事業従事者	0	
准看護師	0	0.79	0.7	栄養士	0	その他の技術員	6	
歯科衛生士	3	1	4	歯科技工士	2	事務職員	109	
管理栄養士	7	1	8	診療放射線技師	51	その他の職員	36	

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	67	眼科専門医	7
外科専門医	36	耳鼻咽喉科専門医	14
精神科専門医	7	放射線科専門医	11
小児科専門医	24	脳神経外科専門医	15
皮膚科専門医	8	整形外科専門医	22
泌尿器科専門医	14	麻酔科専門医	33
産婦人科専門医	20	救急科専門医	20
		合計	298

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (渡辺 敦)

任命年月日 令和 6 年 4 月 1 日

令和5年度医療事故防止対策委員会 委員
 令和6年9月 センター調査
 令和6年12月 日本医療機能評価機構 医療安全管理責任者研修 受講予定

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	515.4 人	13.6 人	529 人
1日当たり平均外来患者数	1474.4 人	86.6 人	1561 人
1日当たり平均調剤数	1,062.87		剤
必要医師数	138.2		人
必要歯科医師数	7.0		人
必要薬剤師数	18.0		人
必要(准)看護師数	318.0		人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
			病床数	人工呼吸装置	その他の救急蘇生装置	心電計 心細動除去装置 ペースメーカー
集中治療室	541.21 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	10 床	有	有	有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	275.54 m ²	病床数	19 床	
	[移動式の場合]	台数	台			
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積	207.63 m ²			
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	165 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	生化学自動分析装置、免疫化学自動分析装置、質量分析装置、精製水作製装置など		
細菌検査室	50.4 m ²	"	(主な設備)	細菌同定用質量分析装置、安全キャビネット、感受性分析装置など		
病理検査室	185.7 m ²	"	(主な設備)	凍結ブロック作製装置、自動染色装置、パラフィン包埋ブロック作製装置など		
病理解剖室	52.3 m ²	"	(主な設備)	解剖台、无影灯、写真撮影装置など		
研究室	1006.8 m ²	"	(主な設備)	遺伝子増幅装置、泳動像撮影装置、液体およびガスクロマトグラフィー装置など		
講義室	619.8 m ²	"	室数	室	收容定員	人
図書室	2312.1 m ²	"	室数	室	蔵書数	冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	99.1	%	逆紹介率	71.4	%
算出 根拠	A: 紹介患者の数		16,912		人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		12,545		人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		387		人
	D: 初診の患者の数		17,449		人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
橋場 弘之	田村・橋場法律事務所	○	法律に関する識見を有する者	無	1
南須原 康行	北海道大学病院		医療に係る安全管理に関する識見を有する者	無	1
高田 久	元 北海道信用保証協会		医療を受ける立場から意見を述べることができる者	無	2
元村 啓司	元 トーアエイヨー (株)		医療を受ける立場から意見を述べることができる者	無	2
小林 宣道	札幌医科大学		その他 (学内委員)	無	3

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
札幌医科大学附属病院ホームページで公開	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	
扱い患者数の合計(人)	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	2	65	原発性免疫不全症候群	8
2	筋萎縮性側索硬化症	3	66	IgA腎症	4
3	脊髄性筋萎縮症	2	67	多発性嚢胞腎	5
4	原発性側索硬化症	1	68	黄色靭帯骨化症	4
5	進行性核上性麻痺	3	69	後縦靭帯骨化症	25
6	パーキンソン病	51	70	広範脊柱管狭窄症	
7	大脳皮質基底核変性症	1	71	特発性大腿骨頭壊死症	24
8	ハンチントン病		72	下垂体性ADH分泌異常症	8
9	神経有棘赤血球症		73	下垂体性TSH分泌亢進症	1
10	シャルコー・マリー・トゥース病	2	74	下垂体性PRL分泌亢進症	
11	重症筋無力症	82	75	クッシング病	1
12	先天性筋無力症候群		76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	71	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	5
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	10	78	下垂体前葉機能低下症	29
15	封入体筋炎	4	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	
16	クロウ・深瀬症候群	1	80	甲状腺ホルモン不応症	
17	多系統萎縮症	2	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	1
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	24	82	先天性副腎低形成症	
19	ライゾゾーム病	3	83	アジソン病	2
20	副腎白質ジストロフィー	1	84	サルコイドーシス	42
21	ミトコンドリア病	4	85	特発性間質性肺炎	34
22	もやもや病	11	86	肺動脈性肺高血圧症	28
23	プリオン病		87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	
24	亜急性硬化性全脳炎		88	慢性血栓栓性肺高血圧症	15
25	進行性多巣性白質脳症		89	リンパ脈管筋腫症	3
26	HTLV-1関連脊髄症	2	90	網膜色素変性症	13
27	特発性基底核石灰化症		91	バッド・キアリ症候群	
28	全身性アミロイドーシス	30	92	特発性門脈圧亢進症	2
29	ウルリッヒ病		93	原発性胆汁性胆管炎	32
30	遠位型ミオパチー	1	94	原発性硬化性胆管炎	4
31	ベスレムミオパチー	1	95	自己免疫性肝炎	19
32	自己食空胞性ミオパチー		96	クローン病	47
33	シュワルツ・ヤンベル症候群		97	潰瘍性大腸炎	82
34	神経線維腫症	11	98	好酸球性消化管疾患	2
35	天疱瘡	11	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	
36	表皮水疱症	2	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	
37	膿疱性乾癬(汎発型)	4	101	腸管神経節細胞減少症	
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	2	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	
39	中毒性表皮壊死症		103	CFC症候群	
40	高安動脈炎	20	104	コステロ症候群	
41	巨細胞性動脈炎	2	105	チャージ症候群	1
42	結節性多発動脈炎	7	106	クリオピリン関連周期熱症候群	
43	顕微鏡的多発血管炎	13	107	若年性特発性関節炎	1
44	多発血管炎性肉芽腫症	9	108	TNF受容体関連周期性症候群	
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	9	109	非典型溶血性尿毒症症候群	
46	悪性関節リウマチ	1	110	ブラウ症候群	
47	バージャー病	3	111	先天性ミオパチー	
48	原発性抗リン脂質抗体症候群		112	マリネスコ・シェーグレン症候群	
49	全身性エリテマトーデス	115	113	筋ジストロフィー	11
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	43	114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	
51	全身性強皮症	56	115	遺伝性周期性四肢麻痺	
52	混合性結合組織病	22	116	アトピー性脊髄炎	
53	シェーグレン症候群	229	117	脊髄空洞症	
54	成人スチル病	7	118	脊髄髄膜瘤	
55	再発性多発軟骨炎	1	119	アイザックス症候群	
56	ベーチェット病	30	120	遺伝性ジストニア	1
57	特発性拡張型心筋症	27	121	神経フェリチン症	
58	肥大型心筋症	22	122	脳表ヘモジデリン沈着症	
59	拘束型心筋症		123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	
60	再生不良性貧血	14	124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	
61	自己免疫性溶血性貧血	2	125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	
62	発作性夜間ヘモグロビン尿症		126	ペリー症候群	
63	特発性血小板減少性紫斑病	24	127	前頭側頭葉変性症	
64	血栓性血小板減少性紫斑病	1	128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	
				小計疾患数	80
				小計患者数(人)	1,453
	疾患名	患者数		疾患名	患者数
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症		193	ブラダー・ウィリ症候群	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

130	先天性無痛無汗症		194	ソトス症候群	
131	アレキサンダー病		195	ヌーナン症候群	
132	先天性核上性球麻痺		196	ヤング・シンプソン症候群	
133	メビウス症候群		197	1p36欠失症候群	
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	1	198	4p欠失症候群	
135	アイカルディ症候群		199	5p欠失症候群	
136	片側巨脳症		200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	
137	限局性皮質異形成	2	201	アンジェルマン症候群	
138	神経細胞移動異常症	1	202	スミス・マギニス症候群	
139	先天性大脳白質形成不全症		203	22q11.2欠失症候群	
140	ドラベ症候群		204	エマヌエル症候群	
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん		205	脆弱X症候群関連疾患	
142	ミオクロニー欠神てんかん		206	脆弱X症候群	
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん		207	総動脈幹遺残症	
144	レノックス・ガストー症候群	2	208	修正大血管転位症	
145	ウエスト症候群		209	完全大血管転位症	
146	大田原症候群		210	単心室症	1
147	早期ミオクロニー脳症		211	左心低形成症候群	
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん		212	三尖弁閉鎖症	
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群		213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	
150	環状20番染色体症候群		214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	
151	ラスマッセン脳炎	1	215	ファロー四徴症	2
152	PCDH19関連症候群		216	両大血管右室起始症	
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	1	217	エプスタイン病	
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症		218	アルポート症候群	2
155	ランドウ・クレフナー症候群		219	ギャロウェイ・モワト症候群	
156	レット症候群		220	急速進行性糸球体腎炎	3
157	スタージ・ウェーバー症候群	1	221	抗糸球体基底膜腎炎	
158	結節性硬化症	7	222	一次性ネフローゼ症候群	8
159	色素性乾皮症	1	223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	2
160	先天性魚鱗癬		224	紫斑病性腎炎	
161	家族性良性慢性天疱瘡		225	先天性腎性尿崩症	
162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	7	226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	
163	特発性後天性全身性無汗症	3	227	オスラー病	2
164	眼皮膚白皮症		228	閉塞性細気管支炎	
165	肥厚性皮膚骨膜炎		229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	3
166	弾性線維性仮性黄色腫		230	肺胞低換気症候群	1
167	マルファン症候群	3	231	α1-アンチトリプシン欠乏症	
168	エーラス・ダンロス症候群	6	232	カーニー複合	
169	メンケス病		233	ウォルフラム症候群	
170	オクシピタル・ホーン症候群		234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	
171	ウィルソン病		235	副甲状腺機能低下症	1
172	低ホスファターゼ症		236	偽性副甲状腺機能低下症	
173	VATER症候群		237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	
174	那須・ハコラ病		238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	1
175	ウィーバー症候群		239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	
176	コフィン・ローリー症候群		240	フェニルケトン尿症	
177	ジュベール症候群関連疾患		241	高チロシン血症1型	
178	モワット・ウィルソン症候群		242	高チロシン血症2型	
179	ウイリアムズ症候群	1	243	高チロシン血症3型	
180	ATR-X症候群		244	メープルシロップ尿症	
181	クルーゾン症候群		245	プロピオン酸血症	
182	アペール症候群		246	メチルマロン酸血症	
183	ファイファー症候群		247	イソ吉草酸血症	
184	アントレー・ピクスラー症候群		248	グルコーストランスポーター1欠損症	
185	コフィン・シリス症候群		249	グルタル酸血症1型	
186	ロスマンド・トムソン症候群		250	グルタル酸血症2型	
187	歌舞伎症候群		251	尿素サイクル異常症	
188	多脾症候群		252	リジン尿性蛋白不耐症	
189	無脾症候群		253	先天性葉酸吸収不全	
190	鰓耳腎症候群		254	ポルフィリン症	
191	ウェルナー症候群		255	複合カルボキシラーゼ欠損症	
192	コケイン症候群		256	筋型糖原病	
				小計疾患数	25
				小計患者数(人)	63
	疾患名	患者数		疾患名	患者数
257	肝型糖原病		319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症		320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	
259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症		321	非ケトーシス型高グリシン血症	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

260	シトステロール血症		322	β-ケトチオラーゼ欠損症		
261	タンジール病		323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症		
262	原発性高カイトロミクロン血症		324	メチルグルタミン酸尿症		
263	脳腫黄色腫症		325	遺伝性自己炎症疾患		
264	無βリポタンパク血症		326	大理石骨病		
265	脂肪萎縮症		327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)		
266	家族性地中海熱	8	328	前眼部形成異常		
267	高IgD症候群		329	無虹彩症		
268	中條・西村症候群		330	先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症		
269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群		331	特発性多中心性キャッスルマン病	4	
270	慢性再発性多発性骨髄炎	1	332	膠様滴状角膜炎ジストロフィー		
271	強直性脊椎炎	2	333	ハッチンソン・ギルフォード症候群		
272	進行性骨化性線維異形成症		334	脳クレアチン欠乏症候群		
273	肋骨異常を伴う先天性側弯症		335	ネフロン癆		
274	骨形成不全症	1	336	家族性低βリポタンパク血症1(ホモ接合体)		
275	タナトフォリック骨異形成症		337	ホモシステチン尿症		
276	軟骨無形成症		338	進行性家族性肝内胆汁うっ滞症		
277	リンパ管腫症/ゴーハム病	1	339	MECP2重複症候群		
278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)		340	線毛機能不全症候群(カルタゲナー症候群を含む。)		
279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)		341	TRPV4異常症		
280	巨大動脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)					
281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	1				
282	先天性赤血球形成異常性貧血					
283	後天性赤芽球癆	4				
284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血					
285	ファンコニ貧血					
286	遺伝性鉄芽球性貧血					
287	エプスタイン症候群					
288	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症					
289	クロンカイト・カナダ症候群					
290	非特異性多発性小腸潰瘍症	1				
291	ヒルシウスブルング病(全結腸型又は小腸型)					
292	総排泄腔外反症					
293	総排泄腔遺残					
294	先天性横隔膜ヘルニア					
295	乳幼児肝巨大血管腫					
296	胆道閉鎖症					
297	アラジール症候群					
298	遺伝性膀胱炎					
299	嚢胞性線維症					
300	IgG4関連疾患	22				
301	黄斑ジストロフィー					
302	レーベル遺伝性視神経症					
303	アッシャー症候群					
304	若年発症型両側性感音難聴	1				
305	遅発性内リンパ水腫					
306	好酸球性副鼻腔炎	39				
307	カナパン病					
308	進行性白質脳症					
309	進行性ミオクローヌステんかん					
310	先天異常症候群					
311	先天性三尖弁狭窄症					
312	先天性僧帽弁狭窄症					
313	先天性肺静脈狭窄症					
314	左肺動脈右肺動脈起始症					
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/LMX1B関連腎症					
316	カルニチン回路異常症					
317	三頭酵素欠損症					
318	シトリン欠損症					
					小計疾患数	13
					小計患者数(人)	148
					合計疾患数	118
					合計患者数(人)	1,664

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・情報通信機器を用いた診療に係る基準	・医療安全対策加算1
・特定機能病院入院基本料 ※一般:7対1 注11 入院栄養管理体制加算	・感染対策向上加算1、指導強化加算
・特定機能病院入院基本料 ※精神:13対1	・患者サポート体制充実加算
・臨床研修病院入院診療加算※基幹型(医科)	・重症患者初期支援充実加算
・臨床研修病院入院診療加算※単独型又は管理型(歯科)	・褥瘡ハイリスク患者ケア加算
・救急医療管理加算	・ハイリスク妊娠管理加算
・超急性期脳卒中加算	・ハイリスク分娩管理加算
・妊産婦緊急搬送入院加算	・呼吸ケアチーム加算
・診療録管理体制加算3	・後発医薬品使用体制加算1
・医師事務作業補助体制加算1 25対1	・病棟薬剤業務実施加算1
・急性期看護補助体制加算25対1(看護補助者5割以上) 注2 夜間急性期看護補助体制加算100対1 注3 夜間看護体制加算 注4 看護補助体制充実加算1	・病棟薬剤業務実施加算2
・看護職員夜間配置加算1 12対1	・データ提出加算2
・看護補助加算(看護補助加算3※精神病棟のみ) 注4 看護補助体制充実加算2	・入退院支援加算2(入院時支援加算2)
・療養環境加算	・医療的ケア児(者)入院前支援加算
・重症者等療養環境特別加算	・認知症ケア加算3
・無菌治療室管理加算1	・精神疾患診療体制加算
・無菌治療室管理加算2	・精神科急性期医師配置加算2のイ
・放射線治療病室管理加算(治療用放射性同位元素による治療の場合)	・排尿自立支援加算
・放射線治療病室管理加算(密封小線源による治療の場合)	・地域医療体制確保加算
・緩和ケア診療加算	・救命救急入院料1 注2 精神疾患診断治療初回加算 注4 早期離床・リハビリテーション加算
・精神科身体合併症管理加算	・救命救急入院料4 注2 精神疾患診断治療初回加算 注4 早期離床・リハビリテーション加算
・精神科リエゾンチーム加算	・特定集中治療室管理料1 注4 早期離床・リハビリテーション加算
・摂食障害入院医療管理加算	・総合周産期特定集中治療室管理料 1 母体・胎児集中治療室管理料 2 新生児集中治療室管理料
・がん診療連携拠点病院加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・栄養サポートチーム加算	・小児入院医療管理料2 注2 加算(プレイルーム) 注5 無菌治療管理加算2 注7 養育支援体制加算

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料の注2	・肝炎インターフェロン治療計画料
・外来栄養食事指導料の注2	・外来排尿自立指導料
・外来栄養食事指導料の注3	・ハイリスク妊産婦連携指導料1
・心臓ペースメーカー指導管理料・植込型除細動器移行期加算	・こころの連携指導料(Ⅱ)
・心臓ペースメーカー指導管理料・遠隔モニタリング加算	・薬剤管理指導料
・高度難聴指導管理料	・医療機器安全管理料1
・糖尿病合併症管理料	・医療機器安全管理料2
・がん性疼痛緩和指導管理料1,2	・精神科退院時共同指導料2
・がん患者指導管理料イ	・救急搬送診療料 注4重症患者搬送加算
・がん患者指導管理料ロ	・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・がん患者指導管理料ハ	・持続血糖測定器加算
・がん患者指導管理料ニ	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・造血器腫瘍遺伝子検査
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・遺伝学的検査の注1
・糖尿病透析予防指導管理料	・遺伝学的検査の注2
・小児運動器疾患指導管理料	・染色体検査 注2 絨毛染色体検査
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・骨髄微小残存病変量測定
・婦人科特定疾患治療管理料	・BRCA1/2遺伝子検査(腫瘍細胞を検体とするもの/血液を検体とするもの)
・一般不妊治療管理料	・がんゲノムプロファイリング検査
・生殖補助医療管理料1	・先天性代謝異常症検査
・外来リハビリテーション診療料	・抗アデノ随伴ウイルス9型(AAV9)抗体
・外来放射線照射診療料	・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
・外来腫瘍化学療法診療料1	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ [®] 判定)
・外来腫瘍化学療法診療料1の注6連携充実加算	・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出
・外来腫瘍化学療法診療料1の注9がん薬物療法体制充実加算	・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(髄液)
・療養・就労両立支援指導料の注3に掲げる相談支援加算	・検体検査管理加算(Ⅳ)
・がん治療連携計画策定料1,2	・国際標準検査管理加算
・がん治療連携管理料	・遺伝カウンセリング加算

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・遺伝性腫瘍カウンセリング加算	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡加算	・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
・植込型心電図検査	・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
・胎児心エコー法	・摂食機能療法の注3に掲げる摂食嚥下機能回復体制加算 ²
・時間内歩行試験	・がん患者リハビリテーション料
・ヘッドアップティルト試験	・リンパ浮腫複合的治療料
・人工膵臓検査	・救急患者精神科継続支援料
・皮下連続式グルコース測定	・精神科作業療法
・長期継続頭蓋内脳波検査	・治療抵抗性統合失調症治療指導管理料
・長期脳波ビデオ同時記録検査 ¹	・医療保護入院等診療料
・脳波検査判断料 ¹	・硬膜外自家血注入
・遠隔脳波診断	・エタノールの局所注入(甲状腺)
・単線維筋電図	・人工腎臓(慢性維持透析を行った場合 ¹)
・神経学的検査	・導入期加算 ¹
・補聴器適合検査	・透析液水質確保加算
・小児食物アレルギー負荷検査	・下肢末梢動脈疾患指導管理加算
・内服・点滴誘発試験	・慢性維持透析濾過加算
・センチネルリンパ節生検 1併用法	・血漿交換療法 注2 難治性コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレンシス療法
・前立腺針生検法(MRI撮影及び超音波検査融合画像によるもの)	・血漿交換療法 注3 移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法
・CT透視下気管支鏡検査加算	・ストーマ合併症加算
・経気管支凍結生検法	・人工膵臓療法
・ポジトロン断層撮影・コンピューター断層複合撮影	・一酸化窒素吸入法
・ポジトロン断層撮影・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限り)	・医科点数表第2章第10節手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術
・CT撮影及びMRI撮影	・再製造単回使用医療機器使用加算
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算
・外来化学療法加算 ¹	・皮膚移植術(死体)
・無菌製剤処理料	・自家脂肪注入
・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)	・組織拡張器による再建手術(乳房の場合)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・四肢・軀幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算	・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
・骨悪性腫瘍、類骨骨腫及び四肢軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法	・内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術
・骨移植術(同種骨移植(非生体)(特殊なもの)	・内視鏡下パセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術
・骨移植術(自家培養軟骨移植術)	・内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術
・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)	・内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術
・椎間板内酵素注入療法	・頭頸部悪性腫瘍光線力学療法
・脳腫瘍覚醒下マッピング加算	・乳房切除術(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)
・原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算	・乳腺悪性腫瘍手術(乳頭乳輪温存乳房切除術)
・内視鏡下脳腫瘍生検術、内視鏡下脳腫瘍摘出術	・乳がんセンチネルリンパ節加算1(併用法)
・脳刺激装置植込術、頭蓋内電極植込術、脳刺激装置交換術	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)	・乳腺悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法
・脊髄刺激装置植込術、脊髄刺激装置交換術	・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(過活動膀胱)	・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・角結膜悪性腫瘍切除術	・胸腔鏡下肺切除術(区域切除及び肺葉切除術又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・緑内障手術(流出路再建術 眼内法)	・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・緑内障手術(インプラント挿入術プレートのあるもの)	・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜心膜合併切除を伴うもの)に限る。)
・緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・緑内障手術(濾過法再建術 needle法)	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)
・経外耳道的内視鏡下鼓室形成術	・食道縫合術(穿孔、損傷) (内視鏡によるもの)
・人工中耳植込術	・経皮的冠動脈形成術
・人工内耳埋込術・人工中耳用材料	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・植込型骨導補聴器移植術及び交換術	・経皮的冠動脈ステント留置術
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・胸腔鏡下弁形成術
・経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うもの)	・経カテーテル大動脈弁置換術
・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)	・胸腔鏡下弁置換術
・内喉頭筋内注入術(ボツリヌス毒素によるもの)	・経皮的僧帽弁クリップ術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・不整脈手術 左心耳閉鎖術 胸腔鏡下によるもの	・腹腔鏡下胃切除術 悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・不整脈手術 左心耳閉鎖術 経カテーテル的手術によるもの	・腹腔鏡下噴門側胃切除術 単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・経皮的カテーテル心筋焼灼術(磁気ナビゲーション加算)	・腹腔鏡下噴門側胃切除術 悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・経皮的中隔心筋焼灼術	・腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)
・ペースメーカー移植術、ペースメーカー交換術	・腹腔鏡下胃全摘術 単純全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ペースメーカー移植術 リードレスペースメーカーの場合	・腹腔鏡下胃全摘術 悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・埋込型心電図記録計移植術及び埋込型心電図記録計摘出術	・胃瘻造設術
・両心室ペースメーカー移植術(心筋電極)、両心室ペースメーカー交換術(心筋電極)	・胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極)、両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極)	・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
・植込型除細動器移植術(心筋リード)、植込型除細動器交換術(心筋リード)	・腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)
・植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・両室ペーシング機能付き埋込型除細動器移植術(心筋電極)及び両室ペーシング機能付き埋込型除細動器交換術(心筋電極)	・腹腔鏡下肝切除術
・両室ペーシング機能付き埋込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き埋込型除細動器交換術	・腹腔鏡下肝切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	・生体部分肝移植術
・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)(18歳未満除く)	・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
・補助人工心臓	・腹腔鏡下膵中央切除術
・経皮的下肢動脈形成術	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・経皮の大動脈遮断術	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)	・腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術
・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)	・腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ダメージコントロール手術	・腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・骨盤内悪性腫瘍及び腹腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法	・内視鏡的小腸ポリープ切除術
・内視鏡的逆流防止粘膜切除術	・小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)	・結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・腹腔鏡下胃切除術 単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下直腸切除・切断術(切除術、低位前方切除術及び切断術に限る)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・腹腔鏡下膣式子宮全摘術(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)
・腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る)
・腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る)
・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・同種死体腎移植術	・腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術
・生体腎移植術	・子宮附属器腫瘍摘出術(両側)(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)
・尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)	・子宮附属器腫瘍摘出術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対して行うものに限る。)
・膀胱水圧拡張術	・胎児胸腔・羊水腔シャント術
・ハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)	・無心体双胎焼灼術
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	・胎児輸血術
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・臍帯穿刺
・膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)	・体外式膜型人工肺管理料(1日につき)
・尿道形成術(前部尿道)(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)	・輸血管理料 I
・尿道下裂形成手術(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)	・輸血管理料 I・輸血適正使用加算
・陰形形成術(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)	・コーディネート体制充実加算
・人工尿道括約筋植込・置換術	・自己生体組織接着剤作成術
・陰形全摘術(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)	・同種クリオプレシピテート作製術
・精巣摘出術(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・精巣内精子採取術	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	・レーザー機器加算
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・麻酔管理料 I
・会陰形成手術(筋層に及ばないもの)(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)	・麻酔管理料 II
・膣腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)	・周術期薬剤管理加算
・造膣術、膣閉鎖症術(遊離植皮によるもの、腸管形成によるもの、筋皮弁移植によるもの)(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)	・放射線治療専任加算
・子宮全摘出術(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)	・外来放射線治療加算
・腹腔鏡下膣式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・高エネルギー放射線治療

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・高エネルギー放射線治療	・
・一回線量増加加算 全乳房照射	・
・強度変調放射線治療(IMRT)	・
・画像誘導放射線治療加算	・
・体外照射呼吸性移動対策加算	・
・一回線量増加加算 前立腺照射	・
・直線加速器による定位放射線治療	・
・定位放射線治療呼吸性移動対策加算	・
・密封小線源治療の注8に掲げる画像誘導密封小線源治療加算	・
・病理診断管理加算2	・
・悪性腫瘍病理組織標本加算	・
・看護職員処遇改善評価料70	・
・歯科治療総合医療管理料	・
・口腔細菌定量検査	・
・精密触覚機能検査	・
・歯科口腔リハビリテーション2	・
・口腔粘膜処置(1口腔につき)	・
・レーザー機器加算	・
・上顎骨形成術、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合)(歯科)	・
・顎関節人工関節全置換術	・
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術(1顎一連につき)	・
・頭頸部悪性腫瘍光線力学療法(歯科)	・
・クラウン・ブリッジ維持管理料	・
・歯科技工士連携加算1及び光学印象歯科技工士連携加算	・
・CAD/CAM冠	・
・歯科技工加算1及び2	・
・歯科矯正診断料	・
・顎口腔機能診断料	・
・	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注)2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	5回	
剖 検 の 状 況	剖検症例数(例)	14
	剖検率(%)	13%

)1 「臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況」欄については、選択肢の1・2どちらかを選択する(○で囲む等)こ

(注)2 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
RalGAP α 2 KOマウスを用いた小腸パネート細胞の機能解析	林 優希	消化器内科学講座	1,700,000円	補委 日本学術振興会
p53ネットワーク破綻によるトランスクリプトーム情報を基盤とした食道癌治療戦略	足立 靖	消化器内科学講座	900,000円	補委 日本学術振興会
ヒストンメチル化酵素阻害による抗腫瘍効果とviral mimicryの解析	佐々木 基	消化器内科学講座	1,100,000円	補委 日本学術振興会
オルガノイドを用いた大腸鋸歯状病変の発癌機序の解明	吉井 新二	消化器内科学講座	700,000円	補委 日本学術振興会
炎症性大腸発癌の浸潤能獲得機序におけるCXCL16の役割解明	平山 大輔	消化器内科学講座	1,200,000円	補委 日本学術振興会
Osteopontin制御機構を用いたgut-lung axisの機序の解明	我妻 康平	消化器内科学講座	900,000円	補委 日本学術振興会
肝細胞癌の分化と浸潤・転移の制御におけるPRDM1とp53の役割と関連の解明	沼田 泰尚	消化器内科学講座	1,100,000円	補委 日本学術振興会
ACE2が腸管組織再生機構へ果たす役割の解明	横山 佳浩	消化器内科学講座	1,300,000円	補委 日本学術振興会
造影剤腎症における新規RASペプチドの役割	茂庭 仁人	循環器・腎臓・代謝内 分泌内科学講座	1,200,000円	補委 日本学術振興会
心筋細胞ネクロトーシスを制御する細胞内シグナル系の解明	三浦 哲嗣	循環器・腎臓・代謝内 分泌内科学講座	400,000円	補委 日本学術振興会
AMPデアミナーゼ活性制御機構の解明と糖尿病性心筋症治療への応用	丹野 雅也	循環器・腎臓・代謝内 分泌内科学講座	800,000円	補委 日本学術振興会
心不全におけるカヘキシア形成ネットワークの解明	永野 伸卓	循環器・腎臓・代謝内 分泌内科学講座	400,000円	補委 日本学術振興会
ネクロトーシス実行因子MLKLを標的とした心不全治療の開発	矢野 俊之	循環器・腎臓・代謝内 分泌内科学講座	1,300,000円	補委 日本学術振興会
脂質シヤペロンと代謝性脂肪肝疾患に関わる腎臓病発症機序の解明	田中 希尚	循環器・腎臓・代謝内 分泌内科学講座	1,000,000円	補委 日本学術振興会
低用量カルペリチドが心房細動アブレーション後の転帰に及ぼす影響の検討	望月 敦史	循環器・腎臓・代謝内 分泌内科学講座	600,000円	補委 日本学術振興会
心筋分岐鎖アミノ酸代謝を標的とした心不全治療の開発	神津 英至	循環器・腎臓・代謝内 分泌内科学講座	1,200,000円	補委 日本学術振興会
脂肪酸結合タンパクファミリーを起点とする多臓器連関	古橋 真人	循環器・腎臓・代謝内 分泌内科学講座	1,700,000円	補委 日本学術振興会
ドキシソルピシン心筋症におけるネクロトーシスを中心とした心筋障害機序の解明	大和田 渉	循環器・腎臓・代謝内 分泌内科学講座	2,100,000円	補委 日本学術振興会
特発性肺線維症の経過観察・薬剤効果判定における強制オンレーション法の有用性の検討	森 勇樹	呼吸器・アレルギー 内科学講座	1,000,000円	補委 日本学術振興会
肺マイクロバイオームの変容と自然免疫応答異常に注目したIPF病態の解明	千葉 弘文	呼吸器・アレルギー 内科学講座	1,300,000円	補委 日本学術振興会
COPDの慢性炎症における濾胞ヘルパーT細胞・末梢性ヘルパーT細胞の解析	宮島 さつき	呼吸器・アレルギー 内科学講座	900,000円	補委 日本学術振興会
特発性肺線維症におけるビルフェニドンが与えるリンパ球サブセットの変化	錦織 博貴	呼吸器・アレルギー 内科学講座	1,100,000円	補委 日本学術振興会
多発性硬化症の神経変性に対するミクログリア由来エクソソームの役割	岩原 直敏	呼吸器・アレルギー 内科学講座	1,500,000円	補委 日本学術振興会
肺線維症の肺マイクロバイオーム解析に基づいたファージ療法を含む新規治療の開発	黒沼 幸治	呼吸器・アレルギー 内科学講座	1,400,000円	補委 日本学術振興会

酸化的DNA傷害修復酵素欠損マウス由来肝腫瘍オルガノイドを用いた新規治療法の探索	田中 信悟	腫瘍内科学講座	400,000円	補委	日本学術振興会
クロマチンリモデリング因子による酸化ストレス制御を介した新規大腸癌治療法の開発	中村 元	腫瘍内科学講座	900,000円	補委	日本学術振興会
AYA世代難治性軟部肉腫に対する免疫原性細胞死を利用した新規抗がん治療法の開発	村瀬 和幸	腫瘍内科学講座	1,500,000円	補委	日本学術振興会
新規肝細胞癌免疫療法の開発を目論んだBRG1によるWntシグナル調節機構の解析	高田 弘一	腫瘍内科学講座	1,500,000円	補委	日本学術振興会
CARとCIML NK細胞を用いた新規固形癌治療の開発	宮西 浩嗣	腫瘍内科学講座	2,600,000円	補委	日本学術振興会
miRNA機能解析による食道癌化学放射線療法耐性機序の解明と不応性の克服	大沼 啓之	腫瘍内科学講座	1,800,000円	補委	日本学術振興会
新規治療法開発を目指したSMARCA4の癌免疫応答を含む胃癌病態修飾機序の解析	早坂 尚貴	腫瘍内科学講座	1,600,000円	補委	日本学術振興会
周皮細胞のアルツハイマー病モデルにおける分化転換の解析	久原 真	神経内科学講座	700,000円	補委	日本学術振興会
エクソソーム解析を基にした多発性硬化症患者における予後予測マーカーの確立	齋藤 太郎	神経内科学講座	800,000円	補委	日本学術振興会
治療応用を目指した胃癌におけるタイト結合分子CL-18.2発現調節機構の解析	伊東 竜哉	消化器・総合、乳腺・内分泌外科学講座	900,000円	補委	日本学術振興会
小胞体ストレス応答を司る長鎖ノンコーディングRNA 革新的治療への展開	市原 もも子	消化器・総合、乳腺・内分泌外科学講座	1,000,000円	補委	日本学術振興会
イムノヒストグラムを用いた直腸癌に対する術前化学療法の新規治療効果予測法の開発	奥谷 浩一	消化器・総合、乳腺・内分泌外科学講座	600,000円	補委	日本学術振興会
直腸癌の個別的リスク評価を目的とした人工知能MRI解析アルゴリズムの確立	竹政 伊知朗	消化器・総合、乳腺・内分泌外科学講座	3,500,000円	補委	日本学術振興会
経時的exosomal miRNA解析による膀胱癌術後早期再発新規バイオマーカーの開発	今村 将史	消化器・総合、乳腺・内分泌外科学講座	1,400,000円	補委	日本学術振興会
遺伝子プロファイルとctDNAに基づくサブタイプ別膀胱癌精密医療実装のための探索的研究	木村 康利	消化器・総合、乳腺・内分泌外科学講座	1,400,000円	補委	日本学術振興会
KLF5を基軸とした新たな癌関連分子制御メカニズムの解明	三代 雅明	消化器・総合、乳腺・内分泌外科学講座	1,100,000円	補委	日本学術振興会
慢性期虚血性脊髄障害に対する骨髄間葉系幹細胞の治療効果の検討	安田 尚美	心臓血管外科学講座	800,000円	補委	日本学術振興会
脊髄障害性疼痛に対する骨髄間葉系幹細胞を用いた治療法の開発	栗原 康太	整形外科科学講座	1,000,000円	補委	日本学術振興会
足関節捻挫後遺症における静電容量型センサ素子を用いた関節不安定性定量評価	寺本 篤史	整形外科科学講座	400,000円	補委	日本学術振興会
脊髄損傷に対する次世代型エクソソームを用いた革新的治療法の開発	廣田 亮介	整形外科科学講座	900,000円	補委	日本学術振興会
人工股関節セメントレスシステムの長期安定性獲得のための設置アライメント	金泉 新	整形外科科学講座	600,000円	補委	日本学術振興会
神経障害性疼痛に対する間葉系幹細胞の治療効果の検討	福士 龍之介	整形外科科学講座	800,000円	補委	日本学術振興会
変形性関節症における滑膜・関節液プロファイルによる疾患制御機構の解明	村橋 靖崇	整形外科科学講座	400,000円	補委	日本学術振興会
脊損に対する骨髄幹細胞治療で介在ニューロンの関与で再構築された神経回路の解析	小原 尚	整形外科科学講座	700,000円	補委	日本学術振興会
プロテオーム解析による骨肉腫の肺転移機序解明と新規治療開発	江森 誠人	整形外科科学講座	1,600,000円	補委	日本学術振興会
骨代謝亢進が運動器変性疾患の疼痛症状を誘発する機序の検討	射場 浩介	整形外科科学講座	1,600,000円	補委	日本学術振興会
新たな烏口鎖骨靭帯再建術の有用性:解剖学的骨孔作成法の制動力と術後臨床成績の検討	杉 憲	整形外科科学講座	2,000,000円	補委	日本学術振興会

てんかん発作誘発機構解明のための病理組織学的研究	三國 信啓	脳神経外科学講座	900,000円	補委	日本学術振興会
中枢神経Glymphatic systemの機能解明と新たな認知症治療薬の開発	秋山 幸功	脳神経外科学講座	1,200,000円	補委	日本学術振興会
Functional Connectivity解析による脳記憶機能地図の解明	千葉 遼平	脳神経外科学講座	100,000円	補委	日本学術振興会
深層学習による吻合技術評価システムの開発とニューロフィードバックの検討	三上 毅	脳神経外科学講座	1,000,000円	補委	日本学術振興会
婦人科がん幹細胞を標的とした新規免疫療法の確立	真里谷 奨	産婦人科学講座	700,000円	補委	日本学術振興会
エストロゲンが寄与するがん微小環境を含めた子宮頸部腺がんの新たな悪性化機序の解明	秋元 太志	産婦人科学講座	900,000円	補委	日本学術振興会
新しい子宮内膜症抑制モデルを用いた発症機序の解明	幅田 周太郎	産婦人科学講座	1,300,000円	補委	日本学術振興会
深層学習を用いた婦人科細胞診断支援装置の実装へ向けた研究	新開 翔太	産婦人科学講座	1,500,000円	補委	日本学術振興会
ロタワクチン定期接種化: 真の安全性・有効性・選択圧の評価モデル構築と流行株の変化	津川 毅	小児科学講座	1,100,000円	補委	日本学術振興会
新生児低酸素性虚血性脳症に対する次世代型エクソソームを用いた新規治療法の開発	寺田 光次郎	小児科学講座	1,200,000円	補委	日本学術振興会
骨髄間葉系幹細胞移植による慢性腎臓病および関連する脳血管障害の同時進行抑制	長岡 由修	小児科学講座	1,200,000円	補委	日本学術振興会
筋ジストロフィーにおけるレスベラトロールの有効性の検証	川村 健太郎	小児科学講座	1,300,000円	補委	日本学術振興会
悪性黒色腫随伴網膜症の分子病態の解析とその臨床応用	半田 弥生	眼科学講座	300,000円	補委	日本学術振興会
IMD-0354を用いた加齢黄斑変性新規治療薬の検討	井田 洋輔	眼科学講座	300,000円	補委	日本学術振興会
日本人メラノーマのドライバー変異と融合遺伝子の網羅的解析	肥田 時征	皮膚科学講座	400,000円	補委	日本学術振興会
IFN- β は悪性黒色腫のマイクロサテライト不安定性を変化させるか?	神谷 崇文	皮膚科学講座	100,000円	補委	日本学術振興会
喫煙と扁桃上皮に着目した掌蹠膿疱症の発症メカニズムの解明	小林 景樹	皮膚科学講座	1,250,000円	補委	日本学術振興会
肥満と皮膚老化を誘導するペプチドに関する研究開発	堀本 浩平	皮膚科学講座	990,000円	補委	日本学術振興会
メラノーマにおける複数の変異遺伝子を候補とした個別化リキッドバイオプシー法の確立	宇原 久	皮膚科学講座	900,000円	補委	日本学術振興会
IL-9とPyyが関与する皮膚炎症メカニズムの解明	神谷 詩織	皮膚科学講座	1,500,000円	補委	日本学術振興会
病理解剖とリキッドバイオプシーによる去勢抵抗性前立腺癌の進展様式の遺伝子学的探索	舩森 直哉	泌尿器科学講座	1,200,000円	補委	日本学術振興会
膀胱癌における抗癌剤耐性とシークエンス免疫治療に共通するエピゲノム分子機構の解明	進藤 哲哉	泌尿器科学講座	1,000,000円	補委	日本学術振興会
熱ショック蛋白と修飾RNAに着目した、腎移植後拒絶反応の非侵襲的バイオマーカー開発	前鼻 健志	泌尿器科学講座	1,600,000円	補委	日本学術振興会
唾液腺免疫性疾患における腺機能障害に対する基礎的研究	高野 賢一	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	700,000円	補委	日本学術振興会
T細胞老化に関連した慢性炎症性疾患の発症メカニズムの解明	亀倉 隆太	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	800,000円	補委	日本学術振興会
薬剤性難聴モデルの確立と新規治療薬の検討	角木 拓也	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	1,600,000円	補委	日本学術振興会
小児急性中耳炎・副鼻腔炎におけるRSウイルスと起因菌相互作用の基盤研究	實川 純人	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	1,800,000円	補委	日本学術振興会

T細胞疲弊を標的としたアレルギー性鼻炎の新規治療戦略	山本 圭佑	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	700,000円	補委	日本学術振興会
頭頸部扁平上皮癌における転写因子p63/タイト結合分子JAM-Aの発現解析	黒瀬 誠	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	1,100,000円	補委	日本学術振興会
p63陽性唾液腺癌の新規病態メカニズム解明と治療法の開発	小幡 和史	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	1,000,000円	補委	日本学術振興会
頭頸部癌におけるHDAC阻害剤によるアポトーシス誘導のメカニズム解析	垣内 晃人	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	2,000,000円	補委	日本学術振興会
レビー小体型認知症の性差に着目した病態解明と治療への応用	小林 清樹	神経精神医学講座	900,000円	補委	日本学術振興会
周産期うつ病を早期発見するための助産師ゲートキーパー研修プログラムの開発	柏木 智則	神経精神医学講座	1,500,000円	補委	日本学術振興会
特別な装置を必要としない実用的な放射線感受性予測法の開発	坂田 耕一	放射線医学講座	800,000円	補委	日本学術振興会
リキッドバイオプシーを用いた個別化放射線治療の実践	染谷 正則	放射線医学講座	1,200,000円	補委	日本学術振興会
頭頸部癌における腫瘍免疫の微小環境の解析と個別化放射線治療への応用	福島 悠希	放射線医学講座	1,100,000円	補委	日本学術振興会
機械学習を用いた腫瘍免疫活性化と放射線治療効果の予測モデルの確立	長谷川 智一	放射線医学講座	1,100,000円	補委	日本学術振興会
腫瘍免疫のリアルタイムモニタリングによる個別化放射線治療の確立	土屋 高旭	放射線医学講座	1,100,000円	補委	日本学術振興会
リキッドバイオプシーを用いた肺癌放射線治療効果および有害事象発症の予測	北川 未央	放射線医学講座	1,100,000円	補委	日本学術振興会
幼若脳の麻酔薬神経毒性に対する新たなアプローチ「脳腸相関」から予防法を探索する	茶木 友浩	麻酔科学講座	100,000円	補委	日本学術振興会
麻酔薬が繊維化に与える影響細胞レベルにおける基礎的研究	早水 憲吾	麻酔科学講座	800,000円	補委	日本学術振興会
デクスメトミジンを用いた全身麻酔暴露による産後うつ病発症予防の新規治療戦略	齋藤 菜摘	麻酔科学講座	700,000円	補委	日本学術振興会
新規全身麻酔薬レミゾラムが人工心肺後の脳内神経炎症に及ぼす影響の解明	高橋 可南子	麻酔科学講座	1,100,000円	補委	日本学術振興会
分散型台帳を用いた麻酔記録のNFT化と機械学習によるデジタル公衆衛生体制の構築	岩崎 創史	麻酔科学講座	500,000円	補委	日本学術振興会
フレイル脳への麻酔・手術侵襲を減弱するには-腸内細菌叢制御を介した戦略	立花 俊祐	麻酔科学講座	900,000円	補委	日本学術振興会
体外循環による腎機能障害に対する亜硝酸塩の腎保護効果の検討と分子機序の解明	大野 翔	麻酔科学講座	800,000円	補委	日本学術振興会
トランスポーター機能の修飾を介した麻酔薬の胎盤移行性制御の探究	佐藤 慧	麻酔科学講座	1,200,000円	補委	日本学術振興会
前帯状皮質のオピオイド受容体を介した妊娠鎮痛による神経障害性疼痛の新規治療戦略	澤田 敦史	麻酔科学講座	1,300,000円	補委	日本学術振興会
2型糖尿病合併心筋におけるデクスメトミジンのポストコンディショニング効果	吉川 裕介	麻酔科学講座	1,100,000円	補委	日本学術振興会
人工呼吸器関連肺障害における肺血管内皮グリコリクシスの動態と新たな治療法の探索	菊池 謙一郎	麻酔科学講座	1,200,000円	補委	日本学術振興会
トロンボモジュリンによるcell-free DNA制御と臓器障害軽減機序の解明	赤塚 正幸	麻酔科学講座	1,100,000円	補委	日本学術振興会
慢性期虚血性脊髄障害に対する次世代型エクソソームを用いた革新的治療法の開発	長谷川 源	麻酔科学講座	1,800,000円	補委	日本学術振興会
漢方薬で心臓を守る一六君子湯の心保護作用の解明	佐藤 智恵	麻酔科学講座	1,900,000円	補委	日本学術振興会
低親和性神経成長因子受容体選択的リガンド:LMI1A-31による術後認知機能障害予防戦略	山蔭 道明	麻酔科学講座	1,900,000円	補委	日本学術振興会

敗血症関連脳症の新たな治療ターゲットとしての血液脳関門グリコカリックスの動態解析	数馬 聡	麻酔科学講座	1,500,000円	補委	日本学術振興会
超音波ガイド上顎・下歯槽神経ブロックによる口腔・顎顔面領域手術の鎮痛戦略	汲田 翔	麻酔科学講座	2,000,000円	補委	日本学術振興会
交感神経系による免疫系制御～敗血症時の免疫異常を骨髄から治療する～	杉山 由紀	麻酔科学講座	1,000,000円	補委	日本学術振興会
有機リン系毒物による中枢性呼吸抑制の機序解明および解毒薬の効果について	野村 和史	総合診療医学講座	100,000円	補委	日本学術振興会
抗菌薬剤感受性サーベイランスによる薬剤耐性淋菌に対する有効な抗菌化学療法の検討	安田 満	感染制御・臨床検査医学講座	1,100,000円	補委	日本学術振興会
低体温性中枢神経系機能変調・保護に対するアデニン神経伝達修飾系の関与の解明	成松 英智	救急医学講座	300,000円	補委	日本学術振興会
高齢者の転倒外傷を減らすための消防・介護予防・地域協働モデルの構築	上村 修二	救急医学講座	400,000円	補委	日本学術振興会
院外心停止におけるsigns of lifeと転帰の関係について:前向きコホート研究	文屋 尚史	救急医学講座	1,000,000円	補委	日本学術振興会
遺伝子変異とがん免疫環境は口腔癌の免疫チェックポイント阻害薬の奏効率の指標となる	荻 和弘	口腔外科学講座	1,200,000円	補委	日本学術振興会
口腔がん微小環境における免疫制御機構の解明と治療への応用	宮崎 晃亘	口腔外科学講座	6,400,000円	補委	日本学術振興会
プロテオゲノミクスHLAリガンドーム解析による口腔がんネオアンチゲンの同定	宮本 昇	口腔外科学講座	1,600,000円	補委	日本学術振興会
HFM患者における新規顎顔面形態評価基準の確立	都倉 堯明	口腔外科学講座	1,800,000円	補委	日本学術振興会
ストレス応答を介した化学療法による口腔癌細胞上のPD-L1誘導機構の解明	笹谷 聖	口腔外科学講座	2,200,000円	補委	日本学術振興会
オステオサルコペニアを有する高齢心不全の臨床的特徴と予後に関する検討	長岡 凌平	リハビリテーション医学講座	600,000円	補委	日本学術振興会
慢性期脳梗塞に対する骨髄幹細胞とリハビリ併用による脳のplasticityの解析	山下 達郎	リハビリテーション医学講座	1,000,000円	補委	日本学術振興会
メタボロミクスに基づくオステオサルコペニア合併心不全の臨床転帰と治療効果の予測	片野 俊敏	リハビリテーション医学講座	500,000円	補委	日本学術振興会
乳幼児期の可撓性扁平足に関する実態調査およびそのリハビリテーション介入の効果検証	宮城島 沙織	リハビリテーション医学講座	400,000円	補委	日本学術振興会
脳梗塞に対する複数回骨髄幹細胞投与における至適リハビリ条件の探索	佐々木 雄一	リハビリテーション医学講座	1,200,000円	補委	日本学術振興会
脳損傷者の運転実態の解明、及び自動車運転評価成績と事故・違反歴の関連性の検証	勝浦 駿平	リハビリテーション医学講座	2,400,000円	補委	日本学術振興会
生体内再生能を有する微小細切化軟骨をコーティングした人工材料移植技術の開発	四ッ柳 高敏	形成外科学講座	1,400,000円	補委	日本学術振興会
老化細胞制御による創面の免疫機構の正常化:バイオフィルムを除去する新規治療の開発	上田 直弘	形成外科学講座	1,200,000円	補委	日本学術振興会
細胞老化制御による新たな糖尿病性潰瘍治療の開発	北 愛里紗	形成外科学講座	1,300,000円	補委	日本学術振興会
免疫チェックポイント阻害薬のPK/PD解析と抗薬物抗体評価に基づく最適使用法開発	福土 将秀	医療薬学	800,000円	補委	日本学術振興会
子宮内膜がんのリンパ節転移と関連するMRI画像特徴量同定	畠中 正光	放射線診断学	1,600,000円	補委	日本学術振興会
集中治療を受ける重症患者における睡眠とメンタルヘルス障害との関連	春名 純平	集中治療医学	700,000円	補委	日本学術振興会
敗血症症例におけるDAMPs制御がImmunoparesisへ影響するか	黒田 浩光	集中治療医学	300,000円	補委	日本学術振興会
非喫煙エストロゲン依存性肺腺癌におけるタイト結合分子を介した悪性化の機序解明	進藤 悠真	呼吸器外科学	1,000,000円	補委	日本学術振興会

造血微細環境における神経ペプチド-PTH2R系に着目した新規AML治療法の開発	小船 雅義	血液内科学	1,100,000円	補委	日本学術振興会
がん化学療法時の栄養状態に関わる腸管機能モニタリングの確立	井山 諭	血液内科学	1,800,000円	補委	日本学術振興会
消化器腫瘍における新規マイクロプロテインMKMP78の検討	神田 真聡	免疫・リウマチ内科学	1,100,000円	補委	日本学術振興会
唾液腺上皮の異所性LAMP3発現が全身性自己免疫疾患の発症に及ぼす影響	中村 浩之	免疫・リウマチ内科学	1,100,000円	補委	日本学術振興会
R5南檜山圏域周産期環境研究事業	齊藤 豪 山蔭 道明	産婦人科学講座 麻酔科学講座	8,000,000円	補委	北海道
健康診断に基づいた小児期からの生活習慣病対策の推進における調査及び分析	石井 玲 竹内 孝子	小児科学講座	434,174円	補委	釧路市
山梨県自殺対策に関する研究	河西 千秋	神経精神医学講座	5,720,000円	補委	山梨県
局所進行直腸癌に対する術前ctDNA検査をコンパニオン診断薬とする術前治療最適化技術の開発に関する研究	浜部 敦史	消化器・総合、乳腺・内分泌外科学講座	9,880,000円	補委	AMED
災害時における感覚器障害者の援助要請手段と効果的な支援提供を実現する双方向連携システムの開発と社会実装にむけた効果検証	高野 賢一	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	10,400,000円	補委	AMED
インフラマソーム関連腸炎の病態解明ならびに診断法確立	仲瀬 裕志	消化器内科学講座	13,000,000円	補委	AMED
梅毒病原体の迅速検出系の確立とそれを利用したゲノム疫学的手法による梅毒の理解に資する研究	安田 満	感染制御・臨床検査医学講座	3,900,000円	補委	AMED
薬剤耐性淋菌およびMycoplasma genitalium感染症に関する研究	安田 満	感染制御・臨床検査医学講座	5,200,000円	補委	AMED
下痢症ウイルスの分子疫学を基盤にした流行制御にかかわる研究	津川 毅	小児科学講座	2,340,000円	補委	AMED
放射線治療に関わるトランスレーショナルリサーチ実施体制構築	染谷 正則	放射線医学講座	100,000円	補委	国立研究開発法人国立がん研究センター
				補委	
				補委	

計146件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Hiroshi Nakase, Kohei Wagatsuma	消化器内科	Anxiety and behavioral changes in Japanese patients with inflammatory bowel disease due to COVID-19 pandemic: a national survey	J Gastroenterol. 2023 Mar;58(3):205-216.	Original Article
2	Tsukasa Yamakawa, Keisuke Ishigami, Hiroshi Nakase	消化器内科	An older patient with active ulcerative colitis and coronavirus disease 2019 (COVID-19) pneumonia successfully treated with the combination of anti-TNF α therapy and azathioprine	Clin J Gastroenterol. 2023 Apr;16(2):187-192.	Case report
3	Hiroshi Nakase	消化器内科	Treatment escalation and de-escalation decisions in Crohn's disease: Delphi consensus recommendations from Japan, 2021.	J Gastroenterol. 2023 Apr;58(4):313-345.	Review

4	Yujiro Kawakami, Hiroshi Nakase	消化器内科	Immunoglobulin G4-related periarteritis successfully diagnosed by endoscopic ultrasonography-guided fine-needle biopsy.	J Gastroenterol. 2023 May;58(5):513.	Case report
5	Yujiro Kawakami, Hiroshi Nakase	消化器内科	A Rare Cause of Priapism.	Gastro Hep Adv. 2023 Jul 20;2(8):1018-1019.	Case report
6	Hiroshi Nakase, Yuki Hayashi, Yoshihiro Yokoyama	消化器内科	Final Analysis of COVID-19 Patients With Inflammatory Bowel Disease in Japan (J-COSMOS): A Multicenter Registry Cohort Study	Gastro Hep Adv. 2023 Jul 31;2(8):1056-1065.	Original Article
7	Hiroshi Nakase	消化器内科	Understanding the efficacy of individual Janus kinase inhibitors in the treatment of ulcerative colitis for future positioning in inflammatory bowel disease treatment.	Immunol Med. 2023 Sep;46(3):121-130.	Review

8	Yujiro Kawakami, Hiroshi Nakase	消化器内科	Pancreatic ductal adenocarcinomas concomitant with intraductal papillary mucinous neoplasms of the pancreas: A investigation of those clinicopathological features by analyzing 48 patients who underwent surgery for those lesions.	Pancreatology. 2023 Sep;23(6):674-681.	Original Article
9	Tomoe Kazama, Keisuke Ishigami, Hiroshi Nakase	消化器内科	Long-term effectiveness and safety of infliximab-biosimilar: A multicenter Phoenix retrospective cohort study. (オンライン)	PLoS One. 2023 Sep 12;18(9):e0288393.	Original Article
10	Yujiro Kawakami, Yoshiharu Masaki, Hiroshi Nakase, et al.	消化器内科	Transcolonic endoscopic ultrasound-guided fine-needle biopsy to diagnose a pancreatic tail adenocarcinoma in a patient with surgically altered anatomy.	Endoscopy. 2023 Dec;55(S 01):E334-E335. (オンライン)	Case report
11	Yujiro Kawakami, Yoshiharu Masaki, Hiroshi Nakase, et al.	消化器内科	A case of IgG4-related cholecystitis diagnosed by transpapillary gallbladder biopsy using a novel device delivery system.	Endoscopy. 2023 Dec;55(S 01):E1108-E1110. (オンライン)	Case report

12	Ohori K, Yano T, Katano S, et al	循環器・腎臓代謝内分泌内科	Relationship between iron deficiency and reduced physical function in heart failure patients is lost by presence of diabetes: potential pitfall in iron supplementation therapy	ESC Heart Failure 2023 Dec; 11: 513-523	Original Article
13	Ohori K, Yano T, Katano S, et al	循環器・腎臓代謝内分泌内科	Co-existence of sarcopenia and self-reported weight loss is a powerful predictor of mortality in older patients with heart failure	Geriatr Gerontol Int. 2024 Jan;24(1):95-101.	Original Article
14	Ohori K, Yano T, Katano S, et al	循環器・腎臓代謝内分泌内科	Relationship between serum iron level and physical function in heart failure patients is lost by presence of diabetes	ESC Heart Fail. 2024 Feb;11(1):513-523.	Original Article
15	Ohori K, Yano T, Katano S, et al	循環器・腎臓代謝内分泌内科	Independent association between use of proton pump inhibitors and muscle wasting in patients with heart failure	Drugs Aging. 2023 Aug;40(8):731-739.	Original Article

16	Osanami A, Sato T, Toda Y, et al	循環器・腎臓代謝内分泌内科	Adenosine monophosphate deaminase in the endoplasmic reticulum-mitochondria interface promotes mitochondrial Ca ²⁺ overload in type 2 diabetes rat hearts.	J Diabetes Investig. 2023 Apr;14(4):560-569.	Original Article
17	Miyamori D, Tanaka M, Sato T, et al	循環器・腎臓代謝内分泌内科	Coexistence of Metabolic Dysfunction-Associated Fatty Liver Disease and Chronic Kidney Disease Is a More Potent Risk Factor for Ischemic Heart Disease.	J Am Heart Assoc. 2023 Jul (オンライン)	Original Article
18	Tanaka M, Sato T, Endo K, et al	循環器・腎臓代謝内分泌内科	An increase in calculated small dense low-density lipoprotein cholesterol predicts new onset of hypertension in a Japanese cohort.	Hypertens Res. 2023 Dec;46(12):2635-2645.	Original Article
19	Endo K, Sato T, Umetsu A, et al	循環器・腎臓代謝内分泌内科	3D culture induction of adipogenic differentiation in 3T3-L1 preadipocytes exhibits adipocyte-specific molecular expression patterns and metabolic functions.	Heliyon. 2023 Oct (オンライン)	Original Article

20	Endo K, Tanaka M, Sato T, et al	循環器・腎臓代謝内分泌内科	A high level of thyroid-stimulating hormone is a risk factor for the development of chronic kidney disease in men: a 10-year cohort study.	Res. 2024 Mar;47(3):663-671.	Original Article
21	Endo K, Kobayashi R, Tanaka M, et al	循環器・腎臓代謝内分泌内科	Validation of Estimated Small Dense Low-Density Lipoprotein Cholesterol Concentration in a Japanese General Population	J Atheroscler Thromb. 2024 Jun 1;31(6):931-952.	Original Article
22	Nishikiori H et al.	呼吸器・アレルギー内科学 講座	Deep-learning algorithm to detect fibrosing interstitial lung disease on chest radiographs.	Eur Respir J. 2023 Feb 16;61(2):2102269. doi: 10.1183/13993003.02269-2021. Print 2023 Feb.PMID: 36202411	Original Article
23	Takenaka H et al.	呼吸器・アレルギー内科学 講座	The soluble lectin families as novel biomarkers for COVID-19 pneumonia.	In Vivo 2023 Jul-Aug;37(4):1721-1728. doi: 10.21873/invivo.13259. The Soluble Lectin Families as Novel Biomarkers for COVID-19 Pneumonia	Original Article

24	Kurounuma K et al.	呼吸器・アレルギー内科学講座	Protective effect of Bifidobacterium longum BB536 against nausea caused by pirfenidone in a mouse model of pellagra.	Biosci Microbiota Food Health. 2023; 42: 195-202.	Original Article
25	Ito R, Miyanishi K, Kubo T, et al.	腫瘍内科学講座	Synergistic antitumor effect of histone deacetylase class IIa inhibitor with lenvatinib in hepatocellular carcinoma.	Hepatol Int. 2023 Jun;17(3):735-744	Original Article
26	Ishikawa K, Ishiwatari H, Sasaki K, et al.	腫瘍内科学講座	Optimization of endoscopic ultrasound-guided tissue sample acquisition for commercially available comprehensive genome profiling.	J Gastroenterol Hepatol. 2023 Oct;38(10):1794-1801	Original Article
27	Kubo T, Muramatsu J, Arihara Y, et al.	腫瘍内科学講座	Clinical characterization of patients with gBRCA1/2 mutation-positive unresectable pancreatic cancer: A multicenter prospective study.	Jpn J Clin Oncol. 2024 Jan 7;54(1):47-53.	Original Article

28	Nakamura H, Arihara Y, Takada K.	腫瘍内科学講座	Targeting STEAP1 as an anticancer strategy.	Front Oncol. 2023 Oct 16:13:1285661.	Original Article
29	Arihara Y, Takada K, Murase K, et al.	腫瘍内科学講座	Inflammation and malnutrition as markers of poor outcomes in head and neck cancer patients treated with nivolumab.	Acta Otolaryngol. 2023 Aug;143(8):714-720.	Original Article
30	Arihara Y, Shibuya R, Ono M, et al.	腫瘍内科学講座	Detailed Clinical Characteristics, Interventions, and Long-Term Outcomes of Patients With Gastric Cancer Who Received the Best Supportive Care Without Any Anticancer Treatment.	Palliat Med Rep. 2023 Dec 7;4(1):334-338.	Original Article
31	Tanaka S, Ohba N, Abe K, et al.	腫瘍内科学講座	The coefficient of determination is affected by the attenuation coefficient in attenuation imaging.	Lab Med Int 2023,2(3):42-49 /Available on J-STAGE: December 29, 2023.	Original Article

32	Nakamura H, Arihara Y, Usami M, et al.	腫瘍内科学講座	ST2825, independent of MyD88, induces reactive oxygen species-dependent apoptosis in multiple myeloma cells.	Biochem Biophys Rep 2024 Mar 5;38:101681.	Original Article
33	Murase K, Takada K, Arihara Y, et al.	腫瘍内科学講座	Treatment for COVID-19 Effective in a B-Cell-Depleted Patient After Anti-CD20 Treatment.	Cureus . 2023 Jul 6;15(7):e41486.	Case report
34	Nakamura H, Shionoya A, Arihara Y, et al.	腫瘍内科学講座	Pemphigus vulgaris as an immune-related adverse event in recurrent metastatic esophageal squamous cell carcinoma treated with ipilimumab plus nivolumab: a case report and literature review.	Front Immunol. 2023 Sep 11;14:1259071.	Case report
35	Kutomi G	消化器・総合、乳腺・内分泌外科学講座	Positional advantages of supine MRI for diagnosis prior to breast-conserving surgery	Mol Clin Oncol. 2023 Apr 4;18(5):44.	Original Article

36	Miyo M	消化器・総合、乳腺・内分泌 外科学講座	Right hemicolectomy for ascending colon cancer using the hinotori surgical robot system: The first ever case report for colon cancer	Asian J Endosc Surg. 2023 Jul;16(3):604-607.	Case report
37	Miura R	消化器・総合、乳腺・内分泌 外科学講座	World-first report of low anterior resection for rectal cancer with the hinotori™ Surgical Robot System: a case report	Surg Case Rep. 2023 Sep 5;9(1):156.	Case report
38	Kimura Y	消化器・総合、乳腺・内分泌 外科学講座	Reconsidering resectable oncological conditions in pancreatic tail cancer: A multicenter retrospective study on prognostic factors in pancreatic tail cancer after resection (HOPS Pt-01)	Pancreatology . 2024 Feb;24(1):109-118.	Original Article
39	Takemasa I	消化器・総合、乳腺・内分泌 外科学講座	Standardization of robot-assisted pelvic lymph node dissection- Development of a common understanding of regional anatomy and surgical technique based on cross-disciplinary discussion among colorectal surgery, urology, and gynecology	Asian J Endosc Surg. 2024 Jan;17(1):e13274.	Original Article

40	Korai T	消化器・総合、乳腺・内分泌 外科学講座	A case report of carcinoma of the papilla of Vater associated with a hyperplasia-dysplasia-carcinoma sequence by pancreaticobiliary maljunction	World J Surg Oncol. 2024 Feb 22;22(1):63.	Case report
41	Takemasa I	消化器・総合、乳腺・内分泌 外科学講座	Tele-proctoring for minimally invasive surgery across Japan: An initial step toward a new approach to improving the disparity of surgical care and supporting surgical education	Ann Gastroenterol Surg. 2023 Nov 21;8(2):356-364.	Original Article
42	Miura S, Habibabady ZA, Pollok F, Ma M, et al.	心臓血管外科	TNX-1500, a crystallizable fragment-modified anti-CD154 antibody, prolongs nonhuman primate cardiac allograft survival.	Am J Transplant. 2023 Aug;23(8):1182-1193.	Original Article
43	Nakajima T, Iba Y, Shibata T, et al.	心臓血管外科	The impact of postoperative cerebrospinal fluid drainage on neurological improvement following thoracic aortic and thoracoabdominal aortic surgery.	J Thorac Dis. 2023 Sep 28;15(9):4787-4794.	Original Article

44	Nakajima T, Shibata T, Miura S, et al	心臟血管外科	Coronary Artery Bypass Grafting Using the No-Touch Great Saphenous Vein Graft Harvesting Technique: A Retrospective Study.	Cureus. 2023 Dec 19;15(12)	Original Article
45	Nakajima T, Shibata T, Mukawa K, et al.	心臟血管外科	Outcomes of Vascular Surgery Performed Jointly With Other Departments.	Cureus. 2023 Aug 21;15(8)	Original Article
46	Shibata T, Iba Y, Shingaki M, et al.	心臟血管外科	One Year Outcomes of Zilver PTX Versus Eluvia for Femoropopliteal Disease in Real-World Practice: REALDES Study.	J Endovasc Ther. 2023 Jun 8	Original Article
47	Sato H, Iba Y, Kawaharada N, et al.	心臟血管外科	Temperature analysis of aortic repair with hypothermic circulatory arrest to quantify the injury by cooling.	Interdiscip Cardiovasc Thorac Surg. 2023 Jan 9;36(1)	Original Article

48	Nakazawa J, Ishii D, Oyu T, et al.	心臓血管外科	Mullerian Cyst in the Posterior Mediastinum Resected by Robot-assisted Thoracic Sugery:Report of a Case	Kyobu Geka. 2023 Mar;76:246-50.	Case report
49	K Tsuruta, M Miyajima, Ishii D, et al	呼吸器外科	Cruicial techniques for chest tube placement and postoperative management	the Japanese journal of thoracic sugery. 2023 Sep; 76:861-4	Original Article
50	K Tsuruta, M Miyajima, Ishii D, et al	呼吸器外科	Novel Surgical Techniques for Lung Tumors	the Japanese journal of thoracic sugery. 2023 Jan; 76:9-14	Original Article
51	Kamiya T, Teramoto A, Otsubo H et al.	整形外科	Risk factors of lower extremity injuries in youth athletes	BMJ Open Sport Exerc Med . 2024 (オンライン)	Original Article

52	Murahashi Y, Teramoto A, Takahashi K et al.	整形外科	High reproducibility of a novel supported anterior drawer test for diagnosing ankle instability	BMC Musculoskelet Disord 2015; 24: 148	Original Article
53	Emori M, Nakahashi N, Takasawa A,et al	整形外科	Establishment and characterization of a novel dedifferentiated chondrosarcoma cell line, SMU-DDCS, harboring an IDH1 mutation.	Hum Cell 2023; 36: 2195- 2203	Original Article
54	Arihara M, Enatsu R, Ochi S, et al.	脳神経外科	Steady-state cortico-cortical evoked potential.	J Clin Neurophysiol 40: 301-309, 2023.	Original Article
55	Komura S, Komatsu K, Mikami T, et al.	脳神経外科	Computational fluid dynamics analysis features in aneurysm development in rats.	Neurol Med Chir (Tokyo) 63: 250-257, 2023.	Original Article

56	Saito T, Mikami T, Hirano T, et al.	脳神経外科	Microbleeds due to reperfusion enhance early seizures after carotid ligation in a rat ischemic model.	Neurol Med Chir (Tokyo) 63: 228-235, 2023.	Original Article
57	Chiba R, Enatsu R, Kanno A, et al.	脳神経外科	Usefulness of intraoperative electrocorticography for the localization of epileptogenic zones.	Neurol Med Chir (Tokyo) 63: 65-72, 2023.	Original Article
58	Sakashita K, Akiyama Y, Hirano T, et al.	脳神経外科	Deep learning for the diagnosis of mesial temporal lobe epilepsy.	PLoS One 18: e0282082, 2023.	Original Article
59	Tamada T, Enatsu R, Saito T, et al.	脳神経外科	Visual networks: Electric brain stimulation and diffusion tensor imaging.	Rev Neurol (Paris) 179: 882-893, 2023.	Original Article

60	Sato R, Akiyama Y, Mikami T, et al.	脳神経外科	Combined endoscopic endonasal and transcranial approach for internal carotid artery aneurysms: Usefulness and safety of endonasal proximal control.	Neurosurg Rev 46: 283, 2023.	Original Article
61	Kamada C, Enatsu R, Kanno A, et al.	脳神経外科	Intraoperative nerve stimulation during vagal nerve stimulator placement.	Surg Neurol Int 14: 312, 2023.	Original Article
62	Yamada S, Enatsu R, Ishikawa S, et al.	脳神経外科	Transcranial electrical stimulation technique for induction of unilateral motor evoked potentials.	Clin Neurophysiol 150: 194-196, 2023.	Original Article
63	Yamada S, Akiyama Y, Tachibana S, et al.	脳神経外科	The intraoperative motor-evoked potential when propofol was changed to remimazolam during general anesthesia: a case series.	J Anesth 37: 154-159, 2023.	Original Article

64	Yamada S, Hayamizu K, Akiyama Y, et al.	脳神経外科	Effect of remimazolam on intraoperative neurophysiology monitoring of visual- evoked potential: a case series.	J Anesth 37: 311-314, 2023.	Original Article
65	Nagahama H, Sasaki M, Komatsu K et al.	神経再生医療科	A practical protocol for high-spatial- resolution magnetic resonance angiography for cerebral arteries in rats	J Neurosci Methods . 2023 Feb 15:386:109784. doi: 10.1016/j.jneumeth.2023. 109784. Epub 2023 Jan 4.	Original Article
66	Terada K, Sasaki M, Nagahama H, et al.	神経再生医療科	Therapeutic efficacy of intravenous infusion of mesenchymal stem cells in rat perinatal brain injury	Pediatr Res . 2023 Dec;94(6):1921- 1928. doi: 10.1038/s41390-023- 02717-9. Epub 2023 Jul 8.	Original Article
67	Kurihara K, Sasaki M, Nagahama H, et al.	神経再生医療科	Repeated intravenous infusion of mesenchymal stem cells enhances recovery of motor function in a rat model with chronic spinal cord injury	Brain Res . 2023 Oct 15:1817:148484. doi: 10.1016/j.brainres.2023.1 48484. Epub 2023 Jul 11.	Original Article

68	Hirota R, Sasaki M, Honmou O,et al.	神経再生医療科	Mesenchymal Stem Cell Transplantation for Spinal Cord Injury: Current Status and Prospects	Spine Surg Relat Res . 2023 Feb 13;7(4):319- 326. doi: 10.22603/ssrr.2022-0234. eCollection 2023 Jul 27.	Review
69	Matsuura M, Yorozu K, Nagao S, Kurokawa S, Tamate M, Akimoto T, Saito T.	産婦人科学講座	Therapeutic efficacy of a four year treatment with eribulin in a patient with uterine leiomyosarcoma: A case report.	Gynecol Oncol Rep. 2023 May 24;47:101205. doi: 10.1016/j.gore.2023.1012 05	Original Article
70	Masato Tamate, Motoki Matsuura, Tsuyoshi Saito.	産婦人科学講座	Cervical conization with endoCUT mode applying gastrointestinal endoscopic polypectomy technique	Obstetrics and Gynecology Science. 2023 Jun 29.	Original Article
71	Shutaro Habata, Ramanaiah Mamillapalli, Abdullah Ucar, Hugh S Taylor.	産婦人科学講座	Donor Mesenchymal Stem Cells Program Bone Marrow, Altering Macrophages, and Suppressing Endometriosis in Mice	Stem Cells Int. 2023;Jul:doi: 10.1155/2023/1598127)	Original Article

72	Isoyama K, Matsuura M, Hayasaka M, Nagao S, Nishimura Y, Yoshioka T, Imai Y, Miyagi E, Suzuki Y, Saito T.	産婦人科学講座	Nationwide trends in and regional factors associated with minimally invasive hysterectomy for benign indications in Japan.	Eur J Obstet Gynecol Reprod Biol. 2023 Aug 29;289:129-135. doi: 10.1016/j.ejogrb.2023.08.388)	Original Article
73	Tsuyoshi Baba, Toshiaki Endo, Tasuku Mariya, Yoshika Kuno, Hiroyuki Honma, Mika Kanaya, Tsuyoshi Saito.	産婦人科学講座	Endocrinological and Metabolic Heterogeneity Is Low in Japanese Women With Polycystic Ovary Syndrome.	J Obstet Gynaecol Can. 2023 Sep 13	Original Article
74	Kashiwagi H, Mariya T, Umemoto M, Ogawa S, Hirohashi Y, Fujibe Y, Kubo T, Someya M, Baba T, Ishioka S, Torigoe T, Saito T.	産婦人科学講座	Pregnancy-specific beta-1-glycoprotein 6 is a potential novel diagnostic biomarker of placenta accreta spectrum.	Med Mol Morphol. 2023 Oct 13. doi: 10.1007/s00795-023-00371-y. Online ahead of print. PMID: 37831187	Original Article
75	Masato Tamate, Motoki Matsuura, Nagisa Wada, Takaki Adachi, Kazuma Yorozu, Chihiro Arimoto, Tsuyoshi Saito.	産婦人科学講座	Laparoscopic retrovesical lower uterine segment bypass for hysterectomy with previous caesarean section: Hung Up the Bladder Bypass (HUBB) technique	Journal of Gynecology Obstetrics and Human Reproduction 2023 Volume 52, Issue 8, October 2023, 102629)	Original Article

76	Matsuura M, Takane K, Yamaguchi K, Ikenoue T, Hatakeyama S, Kurokawa S, Tamate M, Akimoto T, Iwasaki M, Sugita S, Hasegawa T, Ota Y, Saito T, Furukawa Y.	産婦人科学講座	Identification of cancer driver mutations in liquid-based cytology samples for the screening of endometrial diseases.	BJC reports 2023. doi:10.1038/s44276-023-00020-y)	Original Article
77	Fukuda Y, Togashi A, Hirakawa S, et al.	小児科	Resurgence of human metapneumovirus infection and influenza after three seasons of inactivity in the post-COVID-19 era in Hokkaido, Japan, 2022-2023	J Med Virol. 2023 Dec;95(12):e29299. doi: 10.1002/jmv.29299. PMID: 38081792.	Original Article
78	Harada N, Togashi A, Aung MS, et al.	小児科	Acute osteomyelitis/septic pulmonary embolism associated with familial infections caused by PVL-positive ST6562 MRSA-IVa, a presumptive variant of USA300 clone	IJID Reg. 2023 May 21;8:16-18. doi: 10.1016/j.ijregi.2023.05.006. PMID: 37583479	Case report
79	Yamamoto M, Akane Y, Hamada R, et al.	小児科	Rivaroxaban for severe superior sagittal sinus thrombosis in a child with ALL	Int J Hematol. 2023 Sep;118(3):309-310. doi: 10.1007/s12185-023-03640-9. Epub 2023 Jul 14. PMID: 37450173	Case report

80	Terada K, Sasaki M, Nagahama H, et al.	小児科	Therapeutic efficacy of intravenous infusion of mesenchymal stem cells in rat perinatal brain injury	Pediatr Res. 2023 Dec;94(6):1921-1928. doi: 10.1038/s41390-023-02717-9. Epub 2023 Jul 8. PMID: 37422495.	Original Article
81	Fukuda Y, Togashi A, Hirakawa S, et al.	小児科	Changing Patterns of Infectious Diseases Among Hospitalized Children in Hokkaido, Japan, in the Post-COVID-19 Era, July 2019 to June 2022	Pediatr Infect Dis J. 2023 Sep 1;42(9):766-773. doi: 10.1097/INF.00000000000003982. Epub 2023 May 30. PMID: 37257096	Original Article
82	Hida T, Ishikawa A, Okura M, et al.	皮膚科	A Japanese patient with hereditary angioedema caused by deep intron variation in the SERPING1 gene.	J Dermatol. 2023 Sep; 50: 309-310.	Case report
83	Kato J , Hida T , Kamiya T , et al.	皮膚科	Relationships between tumor thickness and the risk of sentinel node metastasis in acral and non-acral melanoma.	Int J Dermatol. 2023 Nov; 62: 573-575.	Letter

84	Sawada M, Hida T, Kamiya T, et al.	皮膚科	Effects of temozolomide on tumor mutation burden and microsatellite instability in melanoma cells.	J Dermatol. 2024 Mar; 51: 409-418.	Original Article
85	Minowa T, Hirohashi Y, Murata K, et al.	皮膚科	Fusion with type 2 macrophages induces melanoma cell heterogeneity that potentiates immunological escape from cytotoxic T lymphocytes	J Pathol. 2023 Jul; 260: 304-316.	Original Article
86	Furudate K, Kato J, Horimoto K, et al.	皮膚科	Evaluation of degeneration of excision margin tissue using a Colorado MicroDissection Needle: A report of two cases.	Australas J Dermatol. 2023 Aug; 64: 301-313.	Letter
87	Abe T, Hida T, Kamiya T, Ebata K, et al.	皮膚科	Four cases of gnathostomiasis due to the ingestion of raw Salangichthys microdon.	J Dermatol. 2024 Feb; 51: 59-60.	Letter

88	Yamashita Ken, Yotsuyanagi Takatoshi, Hamamoto Yusuke et al.	形成外科	Enlargement of the eye socket early after birth with an ocular prosthesis for clinical congenital anophthalmia.	J Plast Reconstr Surg. 2023;2(1):20-24	Case report
89	Yotsuyanagi Takatoshi, Yamashita Ken,Sugai Asuka,et al.	形成外科	Correction of Cryptotia With Double Z-plasty: Modified Large Z-plasty Technique.	The Journal of Craniofacial Surgery. 2023Oct ;34(7):2092-2094	Original Article
90	Kakuki T, Miyata R, Yoshida Y, et al.	耳鼻咽喉科	The Effects of Utilizing Cartilage Conduction Hearing Aids among Patients with Conductive Hearing Loss	Audiol Res . 2023 Jun 1;13(3):408-417.	Original Article
91	Yorozu A, Sekiguchi S, Takasawa A, et al.	耳鼻咽喉科	CXCL12 is expressed by skeletal muscle cells in tongue oral squamous cell carcinoma	Cancer Med . 2023 Mar;12(5):5953-5963.	Original Article

92	Someya M, Hasegawa T, Nakamura A, et al.	放射線治療科	Prediction of late adverse events in pelvic cancer patients receiving definitive radiotherapy using radiation-induced gamma-H2AX foci assay.	J Radiat Res64(6)948-9532023Nov	Original Article
93	Ikeuchi Y, Someya M, Hasegawa T, et al.	放射線治療科	Immunohistological evaluation of patients treated with intra-arterial chemoradiotherapy and surgery for oral cancer.	Med Mol Morphol56(4)288-2962023Dec	Original Article
94	Ohtani A, Saito M, Hirokawa N, et al.	放射線治療科	Direct sac puncture embolization for a left subclavian aneurysm with Marfan syndrome: A case report Radiology Case Report.	Radiol Case Rep.19(3)901-90520243	Case report
95	Ishii T	神経精神科	Implementations of an evidence-based assertive case management intervention for suicide attempters: Post-ACTION-J Study (PACS).	Psychiatry and Clinical Neuroscience Reports, 2023; 2: e106, doi.org/10.1002/pcn5.106	Original Article

96	Deriha K	神経精神科	Reduced sociability in a prenatal immune activation model: modulation by a chronic blonanserin treatment through the amygdala-hippocampal axis.	Journal of Psychiatric Research, 2023; online ahead	Original Article
97	Narita K	神経精神科	Changes in health-related quality of life in patients admitted to emergency departments for attempted suicide: findings from a large longitudinal study.	Journal of Affective Disorders, 347, 262-268, 2023	Original Article
98	Narumi N, Kondo T, Sato Y, 他	検査部	Analysis of diagnostic performance and factors causing nonspecific reactions in SARS-CoV-2 rapid antigen tests	J Infect Chemother. 2023 Feb; 29: 157-162	Original Article
99	Sato Y, Murai R, Kobayashi R, 他	検査部	Factors affecting the sensitivity of quantitative severe acute respiratory syndrome coronavirus 2 antigen test	J Infect Chemother. 2023 Aug; 29: 754-758	Original Article

100	Saeki M, Ichihara K, Yasuda M,他	検査部	Is it meaningful to apply midstream urine culture to urine specimens with negative Gram stain results?	J Infect Chemother. 2023 Aug; 29: 764-768	Original Article
101	Suzuki E, Kuronuma K, Murai R,他	検査部	Serum Testosterone Is Associated With the Severity of COVID-19	in vivo. 2023 Sep-Oct; 37: 2314-2319	Original Article
102	Saeki M, Nirasawa S, Aung MS,他	検査部	Detecting the performance of methicillin-resistant Staphylococcus aureus by a molecular diagnostic assay in positive blood culture: Influence of coexistence of mecA-positive bacteria and diversity in orfX-SCCmec junction region in methicillin-susceptible S. aureus	J Infect Chemother. 2023 Sep; 29: 838-842	Original Article
103	Tanaka M, Tanaka S, Suzuki E,他	医学部感染制御・臨床検査 医学講座	Effect of albumin measurement methods on the albumin-bilirubin grade.	Ann Clin Biochem. 2023 Mar; 60: 100-108	Original Article

104	Minoshima A, Sugita S, Segawa K, et al.	病理部	Usefulness of cell block examination for the cytological diagnosis of thoracic SMARCA4-deficient undifferentiated tumor: A case report.	Diagn Cytopathol 2023 May オンライン	Case report
105	Sugita S, Takenami T, Kido T, et al.	病理部	Usefulness of SynCAM3 and cyclin D1 immunohistochemistr y in distinguishing superficial CD34- positive fibroblastic tumor from its histological mimics.	Med Mol Morphol 2023 Mar 56: 69-77	Original Article
106	Hosaka M, Kubo T, Matsuoka T, et al.	病理部	Severe acute pancreatitis rapidly developed into pulmonary edema and diffuse alveolar hemorrhage leading to respiratory failure: an autopsy case.	Cureus 2023 Oct オンラ イン	Case report
107	Magara K, Takasawa A, Kikuchi K, et al.	病理部	A novel approach to diagnosing crystal- storing histiocytosis: utility of scanning electron microscopy for formalin-fixed paraffin-embedded tissue specimens.	Med Mol Morphol 2023 Dec 56: 297-302	Case report

108	Tatsumi H, Akatsuka M, Kuroda H, et al.	集中治療医学	Effect of linezolid on platelet count in critically ill patients with thrombocytopenia	PLoS One 2023;18(6):e0286088	Original Article
109	Oyama Y, Tatsumi H, Tokuno R, et al.	集中治療医学	The reduced ability to perform activities of daily living is associated with prolonged durations before rehabilitation initiation and lower dietary intake of patients with chronic obstructive pulmonary disease exacerbation	Ann Nutr Metab 2023;79(6):485-492	Original Article
110	Akatsuka M, Tatsumi H, Masuda Y	集中治療医学	Clinical feature and outcomes of in- hospital cardiac arrest in code blue events: a retrospective observational study	Front Cardiovasc Med. 2023;10:1247340	Original Article
111	Mariya T, Shichiri Y, Sugimoto T, et al.	産婦人科学	Clinical application of long-read nanopore sequencing in a preimplantation genetic testing pre- clinical workup to identify the junction for complex Xq chromosome rearrangement- related disease.	Prenat Diag 2023, 43: 304-313.	Original Article

112	Katano S, Yano T, Numazawa R, et al.	リハビリテーション部	Impact of radar chart-based information sharing in a multidisciplinary team on in-hospital outcomes and prognosis in older patients with heart failure	Circ Rep. 20 June 2023	Original Article
113	Numazawa R, Katano S, Yano T, et al.	リハビリテーション部	Development and validation of osteoporosis risk assessment score, ORAS, in heart failure patients: comparison with the Osteoporosis Self-Assessment Tool for Asians (OSTA)	Eur J Cardiovasc Nurs. 26 August 2023	Original Article
114	Sato Y, Tashiro H, Fukumoto K, et al.	リハビリテーション部	Physical activity is associated with walking and balance ability but not fatigue, knee extension strength, or body composition in adults with cerebral palsy: a pilot cross-sectional study	Int J Rehabil Res. 1 September 2023	Original Article
115	Katano S, Yano T, Kouzu H, et al.	リハビリテーション部	Circulating level of β -aminoisobutyric acid (BAIBA), a novel myokine-like molecule, is inversely associated with fat mass in patients with heart failure	Heart Vessel. 3 September 2023	Original Article

116	Numazawa R, Katano S, Yano T, et al.	リハビリテーション部	Independent link between use of mineralocorticoid receptor antagonists and muscle wasting in heart failure patients not receiving renin-angiotensin system inhibitors	Circ J. 6 October 2023	Original Article
117	Nagaoka R, Katano S, Yano T, et al.	リハビリテーション部	Optimal serum 25-hydroxyvitamin D level to prevent sarcopenia in patients with heart failure: insights from a dose-response relationship	Nutr Metab Cardiovasc Dis. 10 October 2023	Original Article
118	Junpei Haruna, Shuji Uemura, Sachi Niyama, et al.	ICU病棟	Influence of Personal and Work Environments on Work-life Balance Among Emergency Medical Technicians.	Cureus. 16(3): e55447, 2024	Others
119	Yoshihiro Akatsuka , Atsushi Teramoto, Hiroyuki Takashima, et al.	放射線部	Relationships of cross-sectional area of the thigh muscles before or after total knee arthroplasty with postoperative pain or patient satisfaction: A retrospective, exploratory study	Asia-Pacific Journal of Sports Medicine, Arthroscopy, Rehabilitation and Technology Volume 33 , July 2023, Pages 20-24	Original Article

120	Kenta Yoshikawa, Tsuyoshi Shibata, Yutaka Iba, et al.	放射線部	Simultaneous delineation of collateral circulation to Adamkiewicz artery via internal thoracic artery and endoleak with an ultrahigh-resolution computed tomography	Journal of Vascular Surgery, Volume 79, Issue 5, 1233 – 1234	Case report
121	Yusuke Kunimoto, Ryosuke Matamura, Hiroshi Ikeda et al.	薬剤部	Adherence of denosumab treatment for low bone mineral density in Japanese people living with HIV: a retrospective observational study	J Pharm Health Care Sci. 2023 Dec 7;9(1):45	Original Article
122	Yuta Ibe, Tomoyuki Ishigo, Satoshi Fujii et al.	薬剤部	Simulation of Vancomycin Exposure Using Trough and Peak Levels Achieves the Target Area under the Steady-State Concentration-Time Curve in ICU Patients	Antibiotics (Basel). 2023 Jun 27;12(7):1113	Original Article
123	Yuta Ibe, Ryuichiro Kakizaki, Hirotoshi Inamura et al.	薬剤部	Tazobactam/ceftolozane and tobramycin combination therapy in extensively drug-resistant Pseudomonas aeruginosa infections in severe burn injury: a case report	J Pharm Health Care Sci. 2023 Aug 8;9(1):25	Case report

124	Tomoyuki Ishigo, Yuta Ibe, Satoshi Fujii at al.	薬剤部	Effect of renal clearance on vancomycin area under the concentration-time curve deviations in critically ill patients	J Infect Chemother. 2023 Aug;29(8):769-777	Original Article
125	Shoto Yamada, Tomohiro Chaki, Yusuke Kimura, et al.	臨床工学部	Effect of a Low Concentration of Sevoflurane Combined With Propofol on Transcranial Electrical Stimulation Motor Evoked Potential: A Case Series	Cureus. 2023 Jul 8;15(7):e41562.	Case report
126	Shoto Yamada, Rei Enatsu, Shu Ishikawa, et al.	臨床工学部	Transcranial electrical stimulation technique for induction of unilateral motor evoked potentials	Clin Neurophysiol. 2023 Jun;150:194-196.	Others
127	Shoto Yamada, Kengo Hayamizu, Yukinori Akiyama, et al.	臨床工学部	Effect of remimazolam on intraoperative neurophysiology monitoring of visual-evoked potential: a case series	J Anesth. 2023 Apr;37(2):311-314.	Case report

128	Shuichi Hashimoto, Takao Murohashi, Shouto Yamada, et al.	臨床工学部	Broad and Asymmetric Lower Extremity Myotomes: Results From Intraoperative Direct Electrical Stimulation of the Lumbosacral Spinal Roots	Spine (Phila Pa 1976). 2024 Jun 1;49(11):805-810.	Original Article
129	Kanako Takahashi, Yusuke Yoshikawa, Masatoshi Kanda et al.	麻酔科	Dexmedetomidine as a cardioprotective drug: a narrative review	J Anesth . 2023 Dec;37(6):961-970.	Review
130	Yusuke Yoshikawa, Shunsuke Oura, Masatoshi Kanda et al.	麻酔科	Comparison of the negative effect of remimazolam and propofol on cardiac contractility: Analysis of a randomised parallel-group trial and a preclinical ex vivo study	Clin Exp Pharmacol Physiol . 2024 Mar;51(3):e13840	Original Article
131	Tomohiro Chaki, Shunsuke Tachibana, Sho Kumita et al.	麻酔科	I-gel Plus acts as a superior conduit for fiberoptic intubation than standard i-gel	Sci Rep . 2023 Oct 26;13(1):18381.	Original Article

132	Makishi Maeda, Yusuke Yoshikawa, Shunsuke Oura et al.	麻醉科	Apnea management during WATCHMAN device deployment with apneic oxygenation: A case report of three cases	Ann Card Anaesth . 2023 Oct-Dec;26(4):458-460.	Case report
133	Yasuaki Sawashita, Satoshi Kazuma, Yasuyuki Tokinaga et al.	麻醉科	Albumin protects the ultrastructure of the endothelial glycocalyx of coronary arteries in myocardial ischemia-reperfusion injury in vivo	Biochem Biophys Res Commun . 2023 Jul 23;666:29-35.	Original Article
134	Tomoe Sato, Mitsutaka Edanaga, Michiaki Yamakage et al.	麻醉科	Platelet Function Testing Using Sonoclot and TEG6s as a Platelet Transfusion Prediction Tool in Open Heart Surgery	Cureus . 2023 Nov 20;15(11):e49131.	Original Article
135	Tomoe Sato, Yasuaki Sawashita, Yusuke Yoshikawa et al.	麻醉科	Japanese Traditional Herbal Medicine, Rikkunshito, Partially Suppresses Inflammatory Responses in Myocardial Ischemia/Reperfusion Injury	Cureus . 2024 Feb 19;16(2):e54485.	Original Article

136	Yusuke Yoshikawa, Makishi Maeda, Sho Ohno et al.	麻醉科	Validity and Utility of Early Parameters in TEG6s Platelet Mapping to Assess the Coagulation Status During Cardiovascular Surgery With Cardiopulmonary Bypass	Cureus . 2023 Apr 24;15(4):e38044.	Original Article
137	Muraki Mami, Mitsutaka Edanaga, Haruka Mizuguchi et al.	麻醉科	A Prospective Randomized Controlled Trial of the Effect of Maintenance of Continuous Cuff Pressures (20 cmH2O vs 30 cmH2O) on Postoperative Airway Symptoms in Laparoscopic Surgeries	Cureus . 2023 Oct 27;15(10):e47816.	Original Article
138	Atsushi Sawada, Sho Kumita, Asako Nitta et al.	麻醉科	Modified thoracoabdominal nerve block through perichondrial approach (M-TAPA): an anatomical study to evaluate the spread of dye after a simulated injection in soft embalmed Thiel cadavers	Reg Anesth Pain Med . 2023 Aug;48(8):403-407.	Original Article
139	Soichi Tanaka, Shunsuke Tachibana, Takashi Toyohara et al.	麻醉科	Venoarterial extracorporeal membrane oxygenation for cardiopulmonary resuscitation: A retrospective study comparing the outcomes of fluoroscopy	Heliyon . 2024 Jan 17;10(2):e24565.	Original Article

140	Tomohiro Chaki, Masatsugu Koizumi, Shunsuke Tachibana et al.	麻醉科	Comparing leak pressure of LMA® ProSeal™ versus i-gel® at head rotation: a randomized controlled trial	Can J Anaesth . 2024 Jan;71(1):66-76.	Original Article
141	Mitsutaka Edanaga, Honami Sato, Gen Ochiai et al.	麻醉科	The Tip Position of Peripherally Inserted Central Catheters by the Sherlock 3CG System Was Almost Deeper Than Zone B: A Case Series	Cureus . 2023 Jun 20;15(6):e40711.	Case report
142	Atsushi Sawada, Michiaki Yamakage	麻醉科	Analgesic effect of neuromodulation using the AT-04 portable magnetic field-generating device in a patient with neuropathic pain: a case report	JA Clin Rep . 2024 Feb 10;10(1):10.	Case report
143	Tabata H, Tanaka T, Shindo T et al.	泌尿器科	Urethrectomy via parapenile incision to complete robot-assisted radical cystectomy in a spine position for male patients.	Int J Urol. 30(10); 936-938: 2023	Original Article

144	Kyoda Y, Hashimoto K, Takahashi A et al.	泌尿器科	Which characteristics are associated with changes in medication status for lower urinary tract symptoms among patients with prostate cancer receiving external beam radiotherapy?	Current Urology 2023	Original Article
145	Kyoda Y, Ichihara K, Muranaka I et al.	泌尿器科	Efficacy of cognitive behavioral therapy using self-check sheet for patients with nocturia in real-world clinical practice.	Lower Urinary Tract Symptoms. 2023;15:225-230	Original Article
146	Masumori N, Nakatsuka M.	泌尿器科	Cardiovascular Risk in Transgender People With Gender-Affirming Hormone Treatment.	Circ Rep. 2023, 28;5(4):105-113.	Original Article
~					

計146件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Nagahata K, Osanami A, Nakamura H, et al.	免疫・リウマチ内科	IgG4-related tubulointerstitial nephritis: Renal capsule-like rim.	QJM. 2023: 116 (11) : 953-954.	Case report
2	Kanda M, Kamekura R, Sugawara M, et al.	免疫・リウマチ内科	IgG4-related disease administered dupilumab: case series and review of the literature.	RMD open 2023: 9(1) : e003026.	Original Article
3	Nagahata K, Suzuki C, Takahashi H.	免疫・リウマチ内科	Spurious macrocytic anemia in a patient with systemic lupus erythematosus: cold agglutinin disease.	Clin Rheumatology 2023: 42 (5) :1485-1486.	Case report

4	Sugawara M, Osanami A, Asai Y, et al.	免疫・リウマチ内科	Successful treatment of ANCA-associated glomerulonephritis following pulmonary alveolar proteinosis by rituximab and avacopan.	Rheumatology 2024: 63 (2), e51-e52.	Case report
5	Nagahata K, Sugawara M, Kanda M, et al.	免疫・リウマチ内科	Unrecognized pneumatosis intestinalis in anti-melanoma differentiation-associated gene 5 antibody-associated dermatomyositis.	J Rheumatol 2023: 50 (6), 846.	Case report
6	Kanda M, Sato M, Nagahata K, et al.	免疫・リウマチ内科	Assessment of oral methotrexate intolerance in Japanese adult patients with rheumatoid arthritis	Int J Rheum Dis 2024: 27 (1), e15029.	Original Article
7	Nagahata K, Kamiya H, Takahashi H.	免疫・リウマチ内科	A Rapidly progressive aortic aneurysm due to Escherichia Coli.	Am J Med 2023: 136 (6), e109-e110.	Case report

8	奥田竜, 長谷川智一, 後町俊夫ら	放射線治療科	当院における神経内分泌腫瘍に対するLu-177によるPRRT治療の初期経験	北海道放射線医学雑誌5	Original Article
9	三原 弘	総合診療医学講座	【急性腹症診療ガイドライン】急性腹症診療ガイドライン初版発刊が診療内容と被引用論文に与えた影響(原著論文)	日本腹部救急医学会雑誌(1340-2242)44巻3号 Page489-500	Original Article
10	Kazuhito Nomura	総合診療医学講座	The lesion site of organophosphorus-induced central apnea and the effects of antidotes	Sci Rep. 2023;13(1):20419. Published 2023 Nov 21.	Original Article
11	文屋 尚史	救急医学講座	Prognostic Significance of Signs of Life in Out-of-Hospital Cardiac Arrest Patients Undergoing Extracorporeal Cardiopulmonary Resuscitation	Crit Care Med . 2024 Apr 1;52(4):542-550.	Original Article

12	文屋 尚史	救急医学講座	Effect of prehospital advanced airway management on out-of-hospital cardiac arrest due to asphyxia: A JAAM-OHCA registry-based observational study in Japan	Acute Med Surg . 2023 Dec 26;10(1):e912	Original Article
13	中山 龍一	救急医学講座	Prehospital Advanced Airway Management and Ventilation for Out-of-Hospital Cardiac Arrest with Prehospital Return of Spontaneous Circulation: A Prospective Observational Cohort Study in Japan	Prehosp Emerg Care . 2024;28(3):470-477.	Original Article
14	加藤 史人	救急医学講座	Multisystem inflammatory syndrome in adults with COVID-19 requiring mechanical ventilation: A retrospective cohort study	Acute Med Surg . 2023 Aug 25;10(1):e885	Original Article
15	Akatsuka M, Yama N	集中治療医学	Bronchiolitis Obliterans With Recurrent Pneumothorax After Allogeneic Bone Marrow Transplantation	Cureus 2023;15(10):e4663	Case report

16	Akatsuka M, Nakajima T, Miyagishima S, et al.	集中治療医学	Diaphragmatic paralysis following open-heart surgery in an adult	Oxf Med Case Reports 2023(12):omad140	Case report
17	Akatsuka M, Sugiyama E	集中治療医学	Precision at the Bedside: Practical Efficacy of Clockwise Catheter Torque for Accurate Tip Positioning of Peripherally Inserted Central Catheters	Cureus 2023;15(12):e50766	Case report
18	畠中正光	放射線診断科	Letter to the editor	Jpn J Radiol. 2023 Jun;41(6):680-681.	Letter
19	山直也・畠中正光	呼吸器内科	Deep-learning algorithm to detect fibrosing interstitial lung disease on chest radiographs	Eur Respir J. 2023 Feb 16;61(2):2102269.	Original Article

20	山直也	救急科	A suicide attempt by intramuscular injection of pentobarbital sodium into rectus abdominis suggested by computed tomography	Forensic Sci Med Pathol . 2023 Jun;19(2):198-201.	Case report
21	阿部晴日、村中沙織、宮越生美ほか	看護部	形成外科における熱傷患者の看護援助に関する看護師の困難	熱傷.2023,49巻3号,155-163	Others
22	新山紗千、春名純平、田口裕紀子ほか	高度救命救急センター病棟	DMAT活動に対する情熱と職場環境の関連性	日本災害医学会雑誌.2023,28巻2号,61-68	Original Article
23					
～					

計22件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・ 手順書の主な内容 委員会の責務、設置、構成、業務、運営等	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 4 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・ 規定の主な内容 利益相反の対象者、利益相反管理の対象、利益相反管理委員会、利益相反管理の実施手続等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 2 回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 2 回
・ 研修の主な内容 「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」の要点	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

<ul style="list-style-type: none">後期研修・専門医制度プログラムは、専門医の取得を目指した研修です。そのため、志望する分野を専門とする診療科に所属し、基本的にその診療科を中心とする研修を受けていただきます。また、多くの学会の認定教育施設となっているため、複数の専門医資格を取得することも可能です。領域 内科、皮膚科、外科、産婦人科、耳鼻咽喉科、脳神経外科、麻酔科、小児科、精神科、整形外科、眼科、泌尿器科、放射線科、リハビリテーション科、救急科、形成外科、病理科、臨床検査科、総合診療科 <p>※ 領域については、新専門医制度基本領域のみ。 (歯科口腔外科についても後期研修を行っています。)</p>
--

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	314 人
-------------	-------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
仲瀬 裕志	内科	教授	33年	
宇原 久	皮膚科	教授	37年	
渡辺 敦	外科	教授	38年	
齋藤 豪	産婦人科	教授	37年	
高野 賢一	耳鼻咽喉科	教授	22年	
三國 信啓	脳神経外科	教授	34年	
山蔭 道明	麻酔科	教授	35年	
津川 毅	小児科	教授	25年	
河西 千秋	神経精神科	教授	34年	
寺本 篤史	整形外科	教授	24年	
大黒 浩	眼科	教授	39年	
舛森 直哉	泌尿器科	教授	35年	
畠中 正光	放射線科	教授	38年	
村上 孝徳	リハビリテーション科	講師	36年	
成松 英智	救急科	教授	36年	
四ツ柳 高敏	形成外科	教授	35年	
長谷川 匡	病理	教授	37年	
高橋 聡	臨床検査	教授	31年	
辻 喜久	総合診療科	教授	22年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 2. 現状
管理責任者氏名	札幌医科大学附属病院 病院長 渡辺 敦 (R6.4.1任命)
管理担当者氏名	総務課長 猪股 由起 / 病院課長 菊池 浩紀 / 薬剤部長 福土 将秀 感染制御部長 高橋 聡 / 医療連携福祉センター長 成松 英智 / 医療安全部長 橋本 暁佳 / 医事経営管理部長 高橋 聡

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	病院課、各診療科、カルテ庫、各診療関係部科 各課において適切に保管・管理している。 病歴資料については、診療科毎に作成しカルテ庫で管理している。 (一診療科一カルテ) エックス線写真については、各診療科とカルテ庫において保管管理している。
		各科診療日誌	
		処方せん	
		手術記録	
		看護記録	
		検査所見記録	
		エックス線写真	
		紹介状	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課
		高度の医療の提供の実績	各診療科
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	各診療科
		高度の医療の研修の実績	病院課
		閲覧実績	-
		紹介患者に対する医療提供の実績	医療連携福祉センター
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事経営課及び薬剤部
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全部
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全部
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全部
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全部

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医事経営課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医事経営課
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医事経営課
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医事経営課

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全部
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医事経営課
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	病院課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	病院課
		監査委員会の設置状況	病院課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療連携福祉センター
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全部
		職員研修の実施状況	各関係部科
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	各関係部科
		管理者が有する権限に関する状況	総務課 医事経営課
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	経営企画課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	経営企画課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 2. 現状
閲覧責任者氏名	北海道公立大学法人札幌医科大学 理事長 山下敏彦
閲覧担当者氏名	北海道公立大学法人札幌医科大学事務局総務課長 猪股由起
閲覧の求めに応じる場所	北海道公立大学法人札幌医科大学事務局総務課
閲覧の手続の概要 ・開示(閲覧)請求の受付 ・開示(閲覧)について内部決定 ・指定した日時・場所において担当職員立会のもと開示(閲覧)	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	☑有・無
<p>・ 指針の主な内容： 「札幌医科大学附属病院における安全管理指針」 本院における医療安全管理に関する基本方針を定めるとともに、院内の責任体制を明確にし、医療安全管理の具体的な推進方策について下記の10項目を規定している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 総則 2 医療安全管理のための体制 3 医療事故等に関する報告制度 4 医療の安全確保を目的とした改善のための方策 5 安全管理のための教職員研修の実施 6 医療事故発生時の対応方法 7 患者相談窓口の設置 8 その他医療安全の推進のために必要な基本方針等 9 本指針の閲覧 10 附則 <p>○H30.4.1改正 医療法施行規則の改正に伴い、医療安全部の役割として、従業者の「医療安全に係る意識向上の状況確認」を追加。</p> <p>○H31.4.1改正 医療安全管理責任者ほか各種管理責任者の命について明示するとともに、医療安全部の構成及び医療安全管理者（GRM）の業務内容について根拠法令の文言に基づき追加・修正。</p> <p>○R2.4.1改正 医療安全管理者（GRM）は医療安全部副部長の中から病院長が任命することを明記するとともに、医療安全管理者の配置に関する文言を修正。</p> <p>○R3.9.1改正 リスクマネージャーからセーフティマネージャーに修正。 ゼネラルリスクマネージャーからゼネラル リプレゼンティティブ オブ セーフティマネージャーに修正。</p> <p>○R6.4.1改正 医療安全管理責任者の要件を「副院長」から「副院長（管理者を補佐する者のうち副院長と同等のものを含む。）」に修正。 医療事故発生時の対応方法に関する修正。 複数の軽微な文言の修正。</p>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 設置の有無（☑有・無） ・ 開催状況：下記のとおり ・ 活動の主な内容：下記のとおり <p>○医療事故防止対策委員会（定例） 年12回 医療事故等の発生原因の分析・再発防止策の検討及び指導等 * 検討結果は、院内へ周知徹底を図っている。</p> <p>○安全対策委員会（定例） 年12回 医療事故防止対策委員会から諮問された事項に係る具体的内容の検討、院内巡回による指導及び措置状況の確認、医療安全対策マニュアルの改訂等</p> <p>○セーフティマネージャー連絡会議（定例） 年6回 院内で発生したインシデント・アクシデントや医療安全に係る情報の周知、上記委員会等で決定した安全対策の自部署へのフィードバック等</p>	

<p>○医療クオリティ審議委員会（随時）令和5年度実績：4回（令和5年6月：2回、8月：1回、12月：1回） 本院において発生した医療事故等に係る事実関係等の調査、その他必要な処置等</p>	
<p>③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況</p>	<p>年 20 回</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： <ul style="list-style-type: none"> 医療安全講演会（2回） トピックス研修会（6回） 感染対策講習会（2回） 医療機器安全管理研修会（1回） 医薬品・医療機器安全管理研修会（1回） 院内BLS/AED講習会（7回） ICLS講習会（1回） 	
<p>④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備（<input checked="" type="checkbox"/>・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ○「札幌医科大学附属病院における安全管理指針」において、医療事故等の区分を6段階にレベル分けして内容を整備し、院内報告の仕方や取扱いを明らかにするとともに、再発防止策の検討方法を規定している。また、死亡例全例の医療安全部への報告体制についても規定している。 ○各部署において「医療安全確保のための業務改善計画書」を作成し、チーム医療の推進をテーマに取り組みを行った。各部署における実施状況は、医療事故防止対策委員会が全部署を巡回し、評価を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 対象部署：診療部門・看護部門、中央部門・事務部門すべて ・ テーマ：インシデントレポートを活用した医療安全への取り組み ・ 備考：1. インシデントレベルを問わず、インシデントレポートを積極的に報告する。 2. 立案した改善策。再発防止策の実行状況の評価する。既存のインシデント・アクシデントレポートから3～4つ選択する。（今後取り組みたい案件も可とする。） ○安全対策委員会において、外来部門、中央部門、事務部門において、患者誤認防止、緊急対応、造影検査時の注意事項についてスタッフの実践状況を確認した。病棟部門においては、「セーフティマネージャーによる病棟・部署相互の医療安全ラウンド」として、医療安全の視点から見た職場環境、病状および手術・検査処置の説明時の言護師同席または患者、家族の反応記録等の実施状況、患者誤認防止、安全情報の各部署での周知方法・職員教育等、安全の視点でスタッフの実施状況を確認した。 ○医療安全対策に関して医療関係者の意識向上と組織的な取組を図る目的で医療安全推進週間を設定し、「医療安全講演会」・「医療安全大賞」の企画を 	

実施した。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無								
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>札幌医科大学附属病院院内感染対策指針 札幌医科大学附属病院における院内感染対策に関する基本事項について、規定したものである。 院内感染対策についての意識の向上に資するものである。</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 院内感染対策に関する基本的考え方</td> <td>2. 院内感染対策のための管理体制・組織</td> </tr> <tr> <td>3. 院内感染対策のための職員研修</td> <td>4. 感染症の発生状況の報告</td> </tr> <tr> <td>5. 院内感染発生時の対応</td> <td>6. 患者等に対する本指針の閲覧</td> </tr> <tr> <td>7. その他の院内感染対策の推進</td> <td></td> </tr> </table>		1. 院内感染対策に関する基本的考え方	2. 院内感染対策のための管理体制・組織	3. 院内感染対策のための職員研修	4. 感染症の発生状況の報告	5. 院内感染発生時の対応	6. 患者等に対する本指針の閲覧	7. その他の院内感染対策の推進	
1. 院内感染対策に関する基本的考え方	2. 院内感染対策のための管理体制・組織								
3. 院内感染対策のための職員研修	4. 感染症の発生状況の報告								
5. 院内感染発生時の対応	6. 患者等に対する本指針の閲覧								
7. その他の院内感染対策の推進									
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回								
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 院内における感染情報の周知及び分析 ・ 感染防止の対応報告及び検討・原因究明 ・ 抗菌薬使用状況（AUDを用いた抗菌薬使用量） ・ 改築工事に伴う浮遊菌調査の結果 ・ 医療器具関連および手術部位感染サーベイランスの結果報告 ・ ワクチン関連 ・ その他院内感染対策に関する事項 									
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年18回								
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 病院感染対策講習会（AST関連含む） 2回：全職員を対象とする ・ 研修医への講義 1回：新規採用研修医を対象とする ・ 新規採用看護師への講義 1回：新規採用された看護師全員を対象とする ・ 復職者および中途採用者への講義 12回：年度途中の復職、異動および採用された職員全員を対象とする ・ 委託職員への講義 2回 									
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況									
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 （ 有・無 ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「感染症発症連絡票」や「行動調査票」を用いて、患者や職員の感染症発生に関する報告を受けている ・ 検査部（細菌検査）からの報告や、感染対策ソフトも用いて院内の菌やウイルスの検出状況を把握し、必要に応じて各部署の責任者などへ詳細報告を求めている <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 感染制御チーム（ICT）および抗菌薬適正使用支援チーム（AST）を設置し、院内感染の状況、抗菌薬適正使用、診断に必要な検体採取状況、職員の感染対策実施の状況などを把握し、適宜介入を行っている ・ ICTによる病棟ラウンドを実施し、臨床現場の現状把握や改善内容の提案をしている ・ 感染症内科およびASTにより、血液培養カンファレンスを週3回開催し、グラム染色像の確認をし、全血液培養陽性事例の確認をし、同定前から必要に応じて感染症治療に介入している。感染症内科では、入院患者のコンサルテーションを受け、主科とともに感染症治療に取り組んでいる。 ・ 担当医が推定微生物、培養結果より抗菌薬の適切な選択がしやすくなるよう、当院における1年間の分離株薬剤感受性率表「アンチバイオグラム」をポケット版で作成している。 									

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 8 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護部新規採用職員研修（薬剤部の機能と役割） 2. トピックス研修会（医薬品の安全管理体制） 3. 医薬品・医療機器安全管理研修会（最近の事例とその対策） 4. 新人看護職員研修（薬剤部門研修）計5回 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成（<input checked="" type="checkbox"/>有・無）</p> <p>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：</p> <p>医師：患者情報・処方時の薬剤・併用薬・残薬等の確認、初回処方時の説明、看護師等への指示の確実な伝達等</p> <p>看護師：与薬・注射投与時の患者及び薬剤の確認、指示変更の確認、医薬品の保管管理等</p> <p>薬剤師：医薬品の採用・購入・管理・調剤、規制薬品等の記録・保存、医薬品情報の収集・提供、他施設との連携等</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備（<input checked="" type="checkbox"/>有・無）</p> <p>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）：</p> <p>下記はいずれも未承認医薬品等管理室に申請し、承認を得て使用した例（抜粋）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ミコフェノール酸モフェチル（免疫関連有害事象（irAE）肝障害への適応外使用） ・ エサキセレン（ミネプロ）とカリウム製剤の併用（原発性アルドステロン症、低カリウム血症への併用禁忌薬の使用） ・ リツキシマブBS（抗NMDA受容体脳炎への適応外使用） ・ プロポフォール1%静注（術後48時間以内の小児に対する鎮静。禁忌症例への使用） ・ ダラツムマブ（ダラザレックス）点滴静注（CD38陽性の再発・難治性T細胞性急性リンパ性白血病への適応外使用） ・ イマチニブ（悪性黒色腫への適応外使用） <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 女性ホルモン関連薬剤の周術期の休薬忘れにより、手術が延期となるケース：患者が服用中である旨の報告の必要性を知らないケースもあったため、患者を対象とした注意喚起のポスターを作成し、外来待合室などに掲示するとともに、保険薬局にも患者指導の協力を依頼した。 ・ アドリアマイシンによる治療中に心不全となった症例：アントラサイクリン/トラスツズマブの処方鑑査時に、心機能検査実施の確認を徹底する。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無		
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年113回		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容：人工心肺装置（4回） 補助循環装置（12回） 人工呼吸器（15回） 血液浄化装置（11回） 除細動器（65回） 閉鎖式保育器（3回） 診療用高エネルギー放射線発生装置及び診療用放射線照射装置（3回） 			
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定（有・無） ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： <table border="0" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>指定機器</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人工心肺装置及び補助循環装置 20件 ・ 人工呼吸器 64件 ・ 血液浄化装置 14件 ・ 除細動器（AED除く） 17件 ・ 閉鎖式保育器 14件 ・ 診療用高エネルギー放射線発生装置 2件 ・ 診療用放射線照射装置 1件 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>指定機器以外</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 在宅療法賃貸借医療機器 30件 ・ その他（在宅除く） 30件 </td> </tr> </table> 		<p>指定機器</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人工心肺装置及び補助循環装置 20件 ・ 人工呼吸器 64件 ・ 血液浄化装置 14件 ・ 除細動器（AED除く） 17件 ・ 閉鎖式保育器 14件 ・ 診療用高エネルギー放射線発生装置 2件 ・ 診療用放射線照射装置 1件 	<p>指定機器以外</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 在宅療法賃貸借医療機器 30件 ・ その他（在宅除く） 30件
<p>指定機器</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人工心肺装置及び補助循環装置 20件 ・ 人工呼吸器 64件 ・ 血液浄化装置 14件 ・ 除細動器（AED除く） 17件 ・ 閉鎖式保育器 14件 ・ 診療用高エネルギー放射線発生装置 2件 ・ 診療用放射線照射装置 1件 	<p>指定機器以外</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 在宅療法賃貸借医療機器 30件 ・ その他（在宅除く） 30件 		
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備（有・無） ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：なし ・ その他の改善のための方策の主な内容： <p>「医療機器安全対策実施要領」に基づき対応している。</p> 			

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無								
<ul style="list-style-type: none"> ・責任者の資格 (医師・歯科医師) ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 ○医療安全管理責任者(副院長(管理者を補佐する者のうち副院長と同等のものを含む。))・医師)は、医療安全部長として当院における医療安全の総括的責任を負う。また、委員長として医療事故防止対策委員会を統括しており、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者が参集している。 									
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (5名)・無								
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 ・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 <p>指名した薬剤師が収集、整理した情報(DSU、医薬品・医療機器等安全性情報、イエロー・ブルーレターやPMDA、m3.com、製薬企業等から得た情報)は、必要に応じてメール配信や紙媒体等で周知するよう指示しており、病棟においては情報が確実に周知されているか病棟担当薬剤師に確認させている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 <p>未承認医薬品等(未承認医薬品、適応外、禁忌)を使用する場合は、未承認医薬品等管理室長へ申請し、承認使用後の報告を受けることとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当者の指名の有無 <input checked="" type="checkbox"/>有・無 ・担当者の所属・職種： <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">(所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師)</td> <td style="width: 50%;">(所属：医療安全部 ， 職種 薬剤師)</td> </tr> <tr> <td>(所属： ， 職種)</td> <td>(所属： ， 職種)</td> </tr> <tr> <td>(所属： ， 職種)</td> <td>(所属： ， 職種)</td> </tr> <tr> <td>(所属： ， 職種)</td> <td>(所属： ， 職種)</td> </tr> </table>		(所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師)	(所属：医療安全部 ， 職種 薬剤師)	(所属： ， 職種)	(所属： ， 職種)	(所属： ， 職種)	(所属： ， 職種)	(所属： ， 職種)	(所属： ， 職種)
(所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師)	(所属：医療安全部 ， 職種 薬剤師)								
(所属： ， 職種)	(所属： ， 職種)								
(所属： ， 職種)	(所属： ， 職種)								
(所属： ， 職種)	(所属： ， 職種)								
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無								
<ul style="list-style-type: none"> ・医療の担い手が説明を行う際と同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (<input checked="" type="checkbox"/>有・無) ・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容 ○医療安全部においてインフォームド・コンセントの診療録への記載内容について確認と評価を行っ 									

ている。また、記載内容が乏しい診療科へは、具体的な記載方法を例にあげ、指導を行っている。

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・ 診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： 診療記録の量的点検を行い、把握した不備の改善を継続的に行っている。また、診療録の質の向上・整備の促進をはかり、多職種間で正しい情報共有ができ安全で良質な医療の提供を行うことを目的に診療録質的監査を実施し、結果を診療科・各部門へフィードバックし継続的に改善に努めている。	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・ 所属職員：専従（５）名、専任（ ）名、兼任（４）名 うち医師：専従（１）名、専任（ ）名、兼任（２）名 うち薬剤師：専従（１）名、専任（ ）名、兼任（ ）名 うち看護師：専従（２）名、専任（ ）名、兼任（ ）名 (注) 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること ・ 活動の主な内容： ○医療の安全を確保するための改善方策に関すること ○医療安全管理のための教職員の教育と啓発に関すること ○医療事故発生時の対応に関すること ○医療事故防止対策委員会等の円滑な運営及び連携に関すること ○高難度新規医療技術に関すること ○未承認新規医薬品等を用いた医療に関すること ○医療安全管理に関する院内の連絡調整 ○その他の医療安全管理に関する庶務 ※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。 ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。	
⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（ 9件）、及び許可件数（ 9件） ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有・無 ） ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有・無 ） ・ 活動の主な内容：	

高難度新規医療技術に該当するかの相談応需、申請受理、適否決定、遵守状況の確認

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (・ 無)
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無 (・ 無)

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数 (49 件)、及び許可件数 (49 件)
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無 (・ 無)
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (・ 無)
- ・ 活動の主な内容 :
適応外使用状況の把握、申請受理、適否決定、遵守状況の確認
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (・ 無)
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (・ 無)

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況 : 年 716 件
 - ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況 : 年 127 件
 - ・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
- 医療事故を防止し、安全な医療を提供する環境を整えることを目的として、以下の事項について調査・審議を行っている。
- ・ 情報の収集及び提供
 - ・ 発生原因の分析並びに発生防止のための具体的方策の立案及び実施
 - ・ 発生防止に係る診療科等での措置状況の確認及び必要に応じた方策の見直し
 - ・ 発生防止に係る方策の周知及び教育
 - ・ その他医療事故の発生防止に係る事項
- 入院患者の死亡事案について、医療安全部で実施したモニタリング結果を、医療事故防止対策委員会で報告している。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（（病院名：信州大学医学部附属病院））・無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（（病院名：名古屋大学医学部附属病院））・無）
- ・技術的助言の実施状況

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況

○患者相談窓口を医療連携福祉センターに設置し、患者・家族等からの相談に応じる。また、状況に応じて、医療安全に関する相談には医療安全管理者等が対応する。なお、安全対策が必要な場合は、医療事故防止対策委員会において協議し対応する。

⑫ 職員研修の実施状況

- ・研修の実施状況

- 4/3～ トピックス研修会「医療安全オリエンテーション」、「医療安全活動」、「医薬品の安全管理体制」、「院内感染対策について」
- 5/16～ トピックス研修会「いつでも、誰でも、Stroke call」、「当院のMET・Critical care outreach system(CCOS)の現状と課題」
- 8/1 医療安全講演会「多職種で取り組む入院前支援一周術期・術前外来フローについて」
- 9/4～ トピックス研修会「心理的安全性①」、「心理的安全性②」
- 10/10～トピックス研修会「心理的安全性③」、「心理的安全性④」
- 11/24 トピックス研修会「ジェンダードリサーチと女性医師の参画」
- 12/4 医療安全講演会「シリーズ「意思決定と倫理対応」Ⅲアップデート総集編」
- 3/11～ トピックス研修会「原子力災害医療に関する基礎研修」

(注) 前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

- ・研修の実施状況

○管理者：日本医療評価機構特定機能病院管理者養成講習会出席(R6. 2. 6)

○医療安全管理責任者：日本医療評価機構特定機能病院管理者養成講習会出席(R6. 1. 26)

- 医薬品安全管理責任者；日本医療評価機構特定機能病院管理者養成講習会出席 (R5. 11. 20)
- 医療機器安全管理責任者：日本医療評価機構特定機能病院管理者養成講習会出席 (R6. 2. 26)

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

(1) 日本医療機能評価機構による病院機能評価（一般病院3）

令和4年改善審査と令和5年再審査を受審し、いずれも「画像診断機能を適切に発揮しているか。」との項目において、C評価を受け認定留保の結果を受ける。

令和6年一般病院3（3rdG:Ver. 3.0）を新規受審。

【訪問審査受審日】：令和6年8月26日、27日、28日

（10月下旬頃、日本医療機能評価機構より「中間的な結果報告」を受ける予定）

(2) 医療安全監査委員会（外部委員含む）を設置し、医療安全に係る管理状況について、中立かつ客観的な立場から監査を受けている。

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

(1) 令和5年再審査結果を本院HP等で公表済み。

(2) 医療安全監査委員会の監査結果は本院HPに公表。

・評価を踏まえ講じた措置

(1) 従来からの指摘事項である「画像診断機能」について、令和5年12月に附属病院内画像診断センターを新設し組織体制を整備するとともに、外部委託機関も活用しながら機能の改善・向上を進めている（読影医による読影率90%以上に改善）。

(2) 医療安全監査委員会の監査の結果、活動内容等について適正な管理・計画がなされていると評価を受けている。

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 (1) 本学内外を問わず、医師免許を有する者 (2) 医療安全管理業務の経験、患者の安全を第一に考える姿勢及び指導力等を有する者 (3) 病院での組織管理経験及び高度な医療を司る特定機能病院の管理運営上必要な資質及び能力を有する者 (4) 本学附属病院の理念及び基本方針に基づいた病院運営を行う能力を有する者 <ul style="list-style-type: none"> ・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ 有・<input checked="" type="checkbox"/>無 ） ・ 公表の方法 <p>選考基準については、選考期間中に大学ホームページに掲載している。</p>
--

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>有・無 ） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>有・無 ） ※経歴については公表していない ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>有・無 ） ・ 公表の方法 ・ 大学ホームページによる公表 ・ 記者クラブへの発表 	

管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の 関係
近江秀彦	札医大理事	○	学長が指名する理事	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
齋藤 豪	札医大医学部長		職指定	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
片寄正樹	札医大保健医療学部長		職指定	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
高橋 聡	札医大附属病副院長		学長が指名する副院長	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
工藤美幸	札医大附属病副院長		学長が指名する副院長	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
仲瀬裕志	札医大医学部教授		教授会から選出	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
渡邊耕太	札医大保健医療学部教授		教授会から選出	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
太田三夫	弁護士 太田・遠藤法律事務所		法務・コンプライアンスに関する高い見識を有している	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
人見嘉哲	北海道保健福祉部技監		長く北海道の保健・医療・福祉に携わり、豊富な知見を有している	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
桃野直樹	室蘭工業大学副学長		大学の教育研究に関し、広くかつ高い見識を有している	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<ul style="list-style-type: none"> ・合議体の主要な審議内容 附属病院における医育、診療、看護、施設及び経営等 ・審議の概要の従業者への周知状況 病院運営協議会、病院業務連絡会議等で周知。 必要に応じて、書面やメールでの周知を実施。 ・合議体に係る内部規程の公表の有無（有・<input checked="" type="checkbox"/>無） ・公表の方法 職員に限定し、ホームページの学内専用ページにおいて閲覧を可能としている。 ・外部有識者からの意見聴取の有無（有・<input checked="" type="checkbox"/>無） 	

合議体の委員名簿

氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
渡辺 敦	○	医師	理事、病院長 (R6. 4. 1 任命)
千葉 弘文		医師	副院長
成松 英智		医師	副院長
工藤 美幸		看護師	副院長
高橋 聡		医師	副院長
福土 将秀		薬剤師	病院長補佐
川原田 修義		医師	病院長補佐
高野 賢一		医師	病院長補佐
橋本 暁佳		医師	病院長補佐
辻 喜久		医師	病院長補佐
谷口 圭吾			病院長補佐
石田 裕一		事務	理事
佐賀井 祐一		事務	事務局長
高梨 勝則		事務	事務局次長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・無）
- ・ 公表の方法

- ・ 規程の主な内容

事務決裁規程により、診療医の任免、許認可の申請、医療費の減免、診療契約等について、附属病院における部局長の専決事項を定めている。

また、教員兼務規程により、附属病院の部長等を決定する際、学長への推薦権を有している。

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割別紙組織図参照

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

【人事の状況】

副院長、各中央部門の長、診療科長については、病院長が推薦し、学長が決定している。

【研修の状況】

本学と包括連携協定を締結している小樽商科大学のビジネススクール「地域医療マネジメントセミナー」について、限られた人数ではあるが、受講する機会を設けている。

例年、病院のマネジメントに特化した研修は行っていないが、計画的かつ継続的に日常の業務の実践を通じた職場内研修（OJT）を実施することにより、業務の遂行能力を高めるよう努めている。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する
状況

監査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年2回</p> <p>・ 活動の主な内容： 医療安全管理体制、医療安全が所管する委員会、特定機能病院の承認要件に係る対応状況、医療安全全部の業務等について、中立かつ客観的な立場から監査を行い、必要に応じて医療安全管理についての是正措置を講ずるよう理事長又は病院長へ意見を表明する。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無）</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無）</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無）</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無）</p> <p>・ 公表の方法：附属病院ホームページにて公表している。</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
橋場 弘之	田村・橋場法律事務所	○	法律に関する識見を有する者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
南須原 康行	北海道大学病院		医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
高田 久	元 北海道信用保証協会		医療を受ける立場から意見を述べることができる者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	2
元村 啓司	元 トーアエイヨー（株）		医療を受ける立場から意見を述べる ことができる者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	2
小林 宣道	札幌医科大学		その他（学内委員）	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	3

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

役員会は、理事長、副理事長、及び理事をもって構成し、予算の作成及び執行並びに決算に関する事項など重要事項について審査を行うほか、附属病院の経営状況についてほぼ毎月協議を行っている。

・ 専門部署の設置の有無 (・ 無)

・ 内部規程の整備の有無 (・ 無)

・ 内部規程の公表の有無 (有 ・)

・ 公表の方法

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

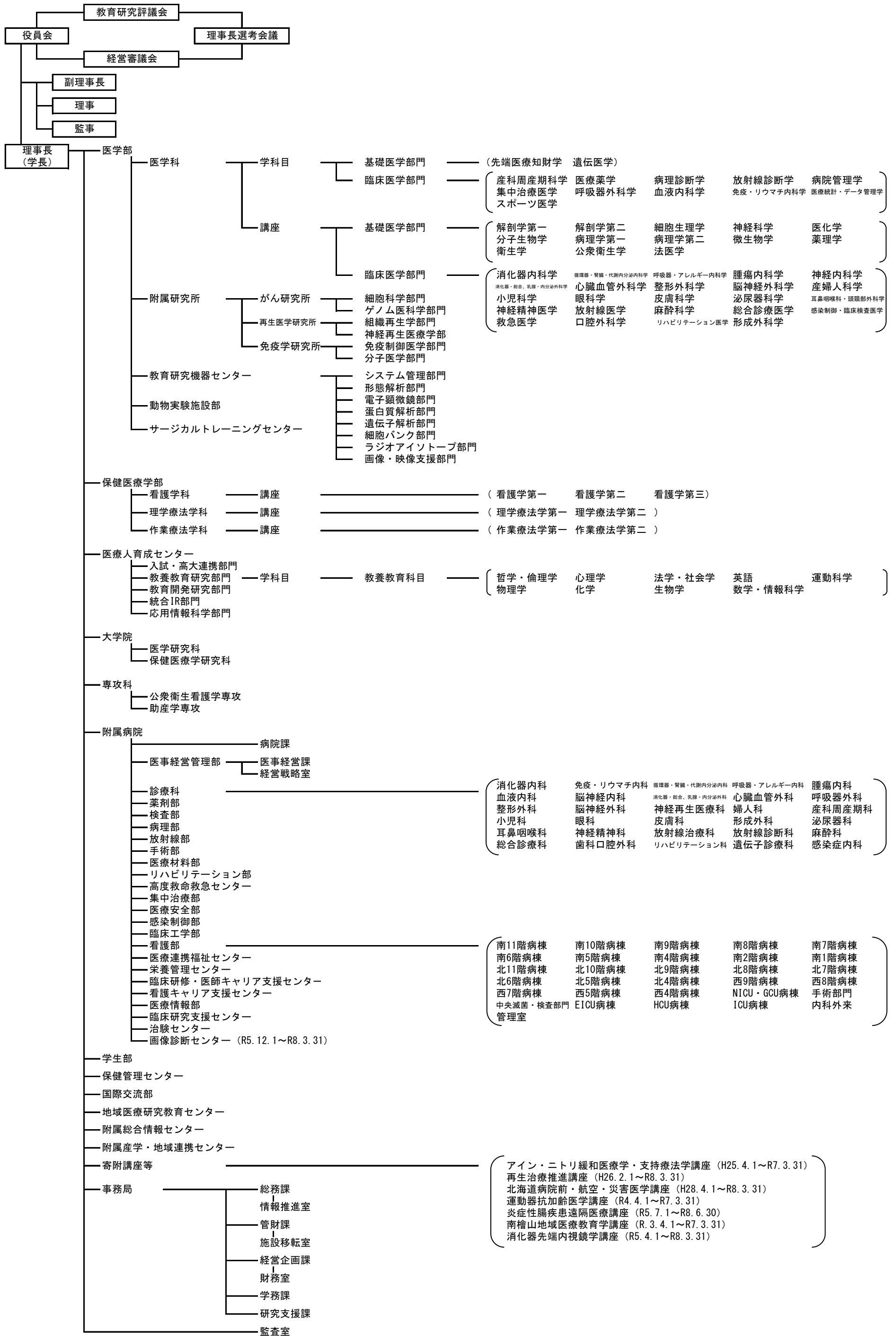
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 役員会は、理事長、副理事長、及び理事をもって構成し、予算の作成及び執行並びに決算に関する事項など重要事項について審査を行うほか、附属病院の経営状況についてほぼ毎月協議を行っている。 ・ 会議体の実施状況（ 年12回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ）（ 年12回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 有・<input checked="" type="checkbox"/> ） ・ 公表の方法 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 通報件数 (年0件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 周知の方法 札幌医科大学ホームページに公益通報窓口の案内を掲載 医療安全対策マニュアルに掲載し、当該マニュアルを病院職員に配布している

■北海道公立大学法人札幌医科大学組織図 (R6. 4. 1現在)



(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・ 情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>情報発信の方法：広報誌、ウェブサイト等</p> <p>内容等の概要：本院の役割や診療機能、医療技術等</p>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>緩和ケア診療、女性外来、GIDクリニック、ブレストセンター、脳機能センター</p> <p>心臓血管センター、スポーツ医学センター、腫瘍診療センター、臨床遺伝センター 等</p>	